

## (1) MSMの薬物使用・不使用に関わる要因の調査 ～男性とセックスをする男性向けの出会い系アプリ利用者の意識や行動に関する調査～

研究分担者：生島 嗣(特定非営利活動法人ふれいす東京)

研究代表者：樽井 正義(特定非営利活動法人ふれいす東京)

研究協力者：野坂 祐子(大阪大学大学院)

三輪 岳史(特定非営利活動法人ふれいす東京)

大槻 知子(特定非営利活動法人ふれいす東京)

山口 正純(武南病院)

藤田 彩子(東京大学大学院、特定非営利活動法人ふれいす東京)

及川 千夏(特定非営利活動法人ふれいす東京)

井上 洋士(放送大学)

大島 岳(一橋大学大学院)

仲倉 高広(京都大学大学院)

林 神奈(サイモンフレイザー大学)

若林 チヒロ(埼玉県立大学)

林 夏生(富山大学)

## 研究要旨

本研究では、MSM（男性とセックスを行う男性 /Men who have Sex with Men）の出会いに関連した環境が個人の性行動や薬物使用行動に与える影響を把握することを目的とした。GPS 機能付きの出会い系アプリを利用するゲイ・バイセクシュアル男性（トランス男性などを含む）を対象に、薬物使用や性生活等に関する自己回答式インターネット調査（LASH:Love Life and Sexual Health）を2016年9月22日～同年10月22日に実施した。

回答を開始した10,544人のデータをクリーニングし、6,921人を解析対象とした。回答者の平均年齢は33.8歳（95%信頼区間：33.6-34.0）で、セクシュアリティは95.8%（6,629/6,921）がゲイ・バイセクシュアル男性であった。ゲイ・バイセクシュアル（トランス・ゲイ男性含む）としての初めての経験の平均年齢は、性経験が20.1歳、友達ができたのが21.7歳、恋人ができたのが22.9歳であった。性行為が自己のセクシュアリティの確認行動とも重なるためか、友人や恋人関係などの人間関係の構築よりも早い段階で経験している傾向が確認された。

女性との既婚率は8.5%（587/6,921）で、地域差がみられた。また、6割以上の回答者が家族や職場に自身のセクシュアリティをカミングアウトしていなかった。HIV/エイズに関しては、HIVを身近に感じていると回答した人の割合は55.5%（3,839/6,921）で、HIV抗体検査を受けた経験のある人の割合は62.3%（4,312/6,921）と高い受検割合であったが、その一方で過去6ヵ月間にコンドームなしのアナルセックスを経験したと回答した人の割合は48.6%（3,364/6,921）であった。また、HIVの感染経路や予防方法に関する知識レベルは概して高かったが、治療により感染性が低減されるという知識は認知されていなかった。

薬物を使用しているのを見たことがあると回答した人の割合は41.4%（2,865/6,921）、薬物使用を勧められた経験がある回答者の割合は36.1%（2,498/6,921）など、MSMを取り巻く環境に身近に薬物使用が存在することが明らかになった。回答者のうち、生涯で薬物使用経験のある人の割合は全体の25.4%（1,756/6,921）、過去6ヵ月間に限ると割合は11.3%（780/6,921）であった。生涯薬物使用経験者の開始

年齢は、10歳未満が0.2% (4/1,756)、10～15歳が2.8% (50/1,756)、16～19歳が17.8% (313/1,756)、20～24歳が37.5% (659/1,756)、25～29歳が22.8% (400/1,756)で、使用経験者の約8割が10～20歳代で薬物使用を開始していた。

幼少期の虐待やいじめ経験といった逆境的小児期体験を最低0点、最高8点の範囲で独自にスコア化したところ、80%以上の回答者がスコア1以上であった。さらに、逆境的小児期体験の重複(スコアの数値の高さ)と薬物使用経験とが強く関連していることが確認出来た。

MSMの間では、薬物使用とHIV感染リスクの高い性行動に強い関連性がある可能性が示唆された。より効果的なHIV予防・薬物防止啓発活動を実施するためにも、薬物を使用に至る背景要因を量的・質的双方の視点で明らかにしていく必要が求められている。また、効果的な薬物防止啓発を実施するには、薬物を使用する背景に、過去のトラウマや逆境を理解した上でのメンタルヘルスに配慮した介入が有益と考えられる。

## A 研究目的

これまでのHIV陽性のMSMを対象にした研究から、MSMの薬物使用と性行動には密接なつながりがあり(生島ら、2013)、ハッテン場やゲイ向けクラブ等での薬物の販売や使用を目撃したり、セックスの相手から勧められたりしたことがきっかけとなって、薬物使用が開始される場合があることが確認されている(生島ら、2014)。また、薬物使用の開始時期の多くは感染判明前であることが明らかになっている(若林ら、2014)。

そこで本研究では、MSMの出会いに関連した環境が個人の性行動や薬物使用行動に与える影響を把握することを目的とした。MSM(HIV陰性者と陽性者、薬物未使用者と使用者)に対する半構造化面接による予備調査(N=14人、1年目)の結果を踏まえ、出会い系SNS利用者において、薬物使用を目撃する、他者から薬物使用を勧められるといった経験がどのような形で起きるのか、どのような契機が薬物の使用と不使用に作用するのか等を調査した。そして分析により、薬物使用をしない、止めるといった分岐点やHIV感染を防ぐ行動に作用する要因を探索した。

また、使用した薬物の種類、使用時期、使用したきっかけ、薬物に対するイメージ等を調査し、その上で、薬物の使用・不使用が個人の性行動や逆境的小児期体験とどのように関連しているのかを検討した。薬物を使用するMSMの特徴を理解することで、HIV感染を防ぐ方向に作用する要因を明らかにし、HIV感染予防を促進するために必要な支援策を探っ

た。

## B 研究方法

GPS機能付きの出会い系アプリを利用するゲイ・バイセクシュアル男性(トランス男性などを含む)を対象に、薬物使用や性生活等に関する自己回答式インターネット調査(LASH:Love Life and Sexual Health)を2016年9月22日～同年10月22日に実施した。データクリーニング後2017年6月20日時点の集計データを対象に、単純集計及び各種要因の関連性を調べる解析をおこなった。

アンケート実施の方法は、N社が運営する国内最大のGPS機能付きの出会い系アプリの起動時にランダムに表示されるバナー広告を有償で出稿し、調査の説明を行うための一般からはアクセスできない限定公開ページに誘導し、同意を得た者にwebアンケートを表示した。調査の流れは、N社が運営するアプリ上に出稿したバナー広告から、調査説明ページ(限定公開ページ)、webアンケート(SurveyMonkey)であった。

調査実施に関しては、NPO法人ぶれいす東京倫理委員会にて審査を受け、承認された。調査協力者にはwebサイト上で、匿名の調査であること、自由意志による回答で、いつでも回答が止められることなどについて説明を行い、同意を得た。

# 研究結果

## 1. データクリーニング作業

回答を開始した 10,544 人のうち、基礎情報無記入者(979 人)、IP アドレスにより発覚した重複回答者(25 人)と矛盾回答者(820 人)を除外した。重複回答者については、回答した質問の多い一方のデータを残し、どちらのデータも全問回答の場合、最初に回答した一方のデータを残した。データクリーニング後の 8,720 人のうち、全問回答者である 6,921 人をデータ解析の対象とした(2017 年 6 月 20 日時点の集計データ)。

尚、矛盾回答者に該当する者は、「16 歳未満」で「大学在学中・卒業」といった明らかに誤った回答をした者であり、データの信頼性に欠けるために該当する回答者のデータを全て解析から削除した。一方、Q45 の「これまでに HIV 抗体検査を受けたことがありますか？」の質問に「いいえ」と答えたにも関わらず、Q49 の「受けたことがない理由は次のどれがあてはまりますか？」の質問の自由記述欄に「HIV 陽性だから」という理由を記述している回答者が 8 人いた。この 8 人に関しては、Q45 の回答を「いいえ」から「はい」に変更し、Q46 の「結果はどうでしたか？」の回答を「非該当」から「陽性」に変更した。

## 2. 結果

### 基礎情報

回答者の平均年齢は 33.8 歳(95% 信頼区間：33.6-34.0)で、20～34 歳の年齢層が最も多くて 52.1% (3,608/6,921)であった。居住地は東京都が 24.2% (1,676/6,921)、大阪府(9.5%)と神奈川県(7.6%)、愛知県(5.6%)、福岡県(5.1%)、埼玉県(5.0%)と続き、日本全国から回答を得ることができた。セクシュアリティは同性愛者(ゲイ)が回答者の大部分の 79.5% (5,503/6,921)を占め、次いで両性愛者(バイセクシュアル)が 16.3% (1,126/6,921)であった。また、トランスジェンダー(トランス男性、トランス女性、その他)も 1.2% (83/6,921)回答していた。尚、その他は、セクシュアリティの質問に対して「その他」と回答した 33 人のうち、自由記述欄の内容からトランスジェンダーと判断された 19 人が該当する。

ゲイ・バイセクシュアル(トランス・ゲイ男性含む)との初めての経験については、性経験が平均 20.1 歳、友達ができたのが平均 21.7 歳、恋人ができたのが 22.9 歳であった。また、回答者のうち 45.3% (3,135/6,921)が過去 6 ヶ月間にパートナーがいると回答した。今まで一番長く男性と付き合った期間は 46.1% (3,192/6,921)が 3 年未満で、18.7% (1,296/6,921)は過去に男性と付き合った経験がないと回答していた。

単純集計の結果の詳細については、添付の「平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業 LASH 調査報告書」に記載する。また、本報告書の地域別集計は、下記の表 1 に従っている。海外居住者の回答者数は他の地域ブロックと比較して少ないため(31 人)、本報告書のグラフからは除外している。

表 1.1 地域ブロックと都道府県

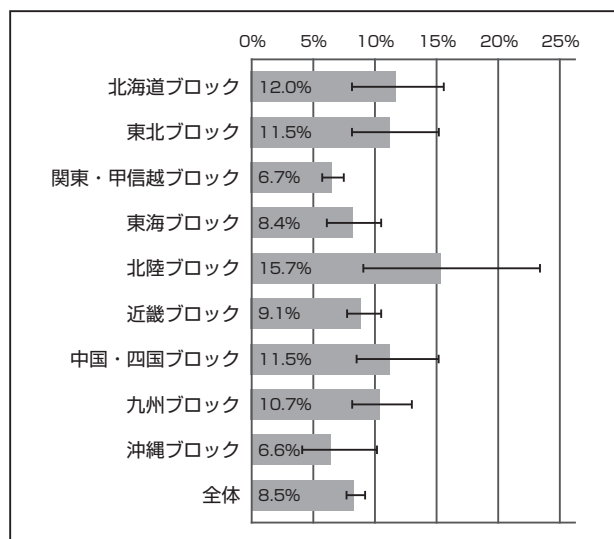
地域ブロック	都道府県
北海道ブロック	北海道
東北ブロック	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東・甲信越ブロック	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県
東海ブロック	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
北陸ブロック	富山県、石川県、福井県
近畿ブロック	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国・四国ブロック	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州ブロック	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
沖縄ブロック	沖縄県

### パートナーシップ、女性との既婚歴

本報告書では、男性または女性との結婚・パートナーシップ経験に関する質問を含めた。「女性と結婚」、「女性と友情結婚(訳知りの相手と)」、「男性と結婚(法的)」、「男性と式を挙げた(国内、海外)」、「男性パートナーと養子縁組」、「国内のパートナーシップ制度の利用」、「男性パートナーと任意後見人制度の利用」、「海外のパートナーシップ登録制度の利用」に対して、「一度もしたことがない」、「過去にしたことがある」、「現在している」、「そもそも希望していない」の 5 択の回答選択肢を提示した。経験者は少数であったが、女性との結婚経験者数は他のパートナーシップ経験者数より多かった。女性との結婚

に関する質問について、「過去にしたことがある」または「現在している」と回答した者は計 587 人で、回答者の 8.5% (587/6,921)であった(図 1.1)。

図 1.1 女性と結婚している / したことがある人の割合 (± 95% 信頼区間)



地域別で女性との既婚歴を確認したところ、信頼区間が重なるブロックが多いものの、北陸ブロックの回答者は全体と比較して既婚率が高いことが確認出来た。また、関東・甲信越ブロックの回答者においては、北海道ブロック、東北ブロック、北陸ブロックに比べて既婚者の割合が低い傾向にあった。

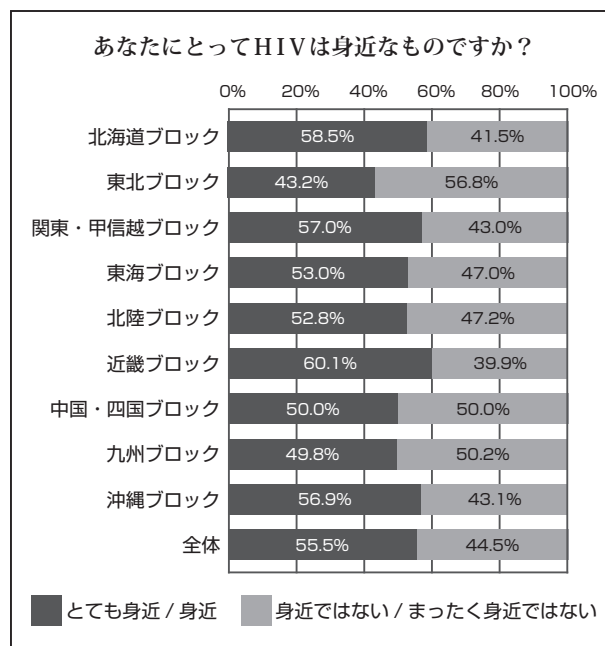
### カミングアウト経験

親へのカミングアウト経験については、「両親ともにしていない / しなかった」が回答者の大多数を占めて 69.9% (4,839/6,921)であった。両親ともにカミングアウトをした回答者は 8.5% (590/6,921)であった。職場や学校でのカミングアウトも同様に低く、66.2% (4,584/6,921)が「全くしていない」と回答した。

### HIV/エイズ

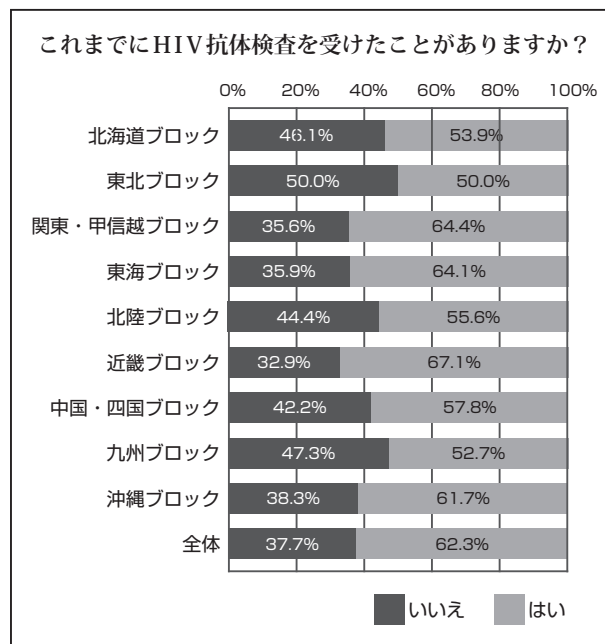
また、「あなたにとって HIV は身近なものですか?」という質問に対して、「とても身近」を回答したのは 18.9% (1,309/6,921)、身近と回答したのは 36.6% (2,530/6,921)で、合わせて 55.5% (3,839/6,921)であった。「とても身近」あるいは「身近」と回答した人の割合については、東北ブロックが全体と比較して低く 43.2% (128/296)であった(図 1.2)。

図 1.2 地域別の HIV 身近度



これまでに HIV 抗体検査を受けた経験のある人の割合は 62.3% (4,312/6,921)であった。東北ブロックは 50.0% (148/296)、九州ブロックは 52.7% (325/617)、北海道ブロックは 53.9% (139/258)、北陸ブロックは 55.6% (60/108)、で、全体と比較してやや低めの傾向がみられた(図 1.3)。

図 1.3 地域別の HIV 検査経験





本研究では HIV の知識についても質問した。治療とウイルス量の変化、性感染症と HIV 感染の関連、早期治療の重要性、医療費助成制度の存在、検出限界以下だと感染は起こりにくい、知らずにいると誰かにウイルスを移す、オーラルセックスのリスク、男性同性間のセックスが主要感染経路、コンドームが感染症に有効、プライバシーは守られる、といった内容の質問をした。最も正答率が高かったのは、「HIV 感染に気づかずにいると、セックスを通じて体内のウイルスを誰かにうつすことがある」の質問で、98.8% (6,840/6,921) の人が正答した。

一方、「HIV 感染に気付いている人は、治療を継続することで血液中からウイルスがほとんど見つからなくなる」の質問に対して、正答である〇と回答した人は 37.9% (2,623/6,921) で、多くの回答者が不正解であった。また、「セックスの相手が HIV に感染している場合でも、感染に気づき治療を継続している場合には、感染の可能性は非常に低くなる」という質問の正答率も 43.0% (2,977/6,921) であった。

尚、過去 6 ヶ月間にコンドームなしのアナルセックスを経験したと回答した人の割合は 48.6%

(3,364/6,921) で、HIV/ エイズに関する知識が概して高いにも関わらず、HIV 感染リスクの高い性行動を行っている人が約半数いた。

### MSM における HIV 感染リスク (HIRI-MSM を参考にしたリスクの評価)

本研究には、HIRI-MSM (HIV Incidence Risk Index for MSM) と呼ばれる、米国 CDC (疾病管理予防センター) が開発した MSM を対象にした HIV の感染リスクを測る簡易スクリーニング・テスト (7 項目、得点範囲 0-47 点、カットオフ値 10 点) (Smith et al., 2012) の各項目に該当する質問が含まれた。そこで先行研究 (Smith et al., 2012) に沿って、本研究では表 1.2 のように、回答者の HIV 感染リスクを計算した。算出の際、HIV 陽性者は非該当者 (NA) とした。

表 1.2 に沿って計算した HIV 感染リスクのスコアを 47 点満点中、Smith ら (2012) を参考に、9 点以下の低スコア群と、10 点以上の高スコア群に分けた (表 1.3、図 1.4)。

表 1.2 HIV 感染リスク (HIRI-MSM 参考) のスコア化表

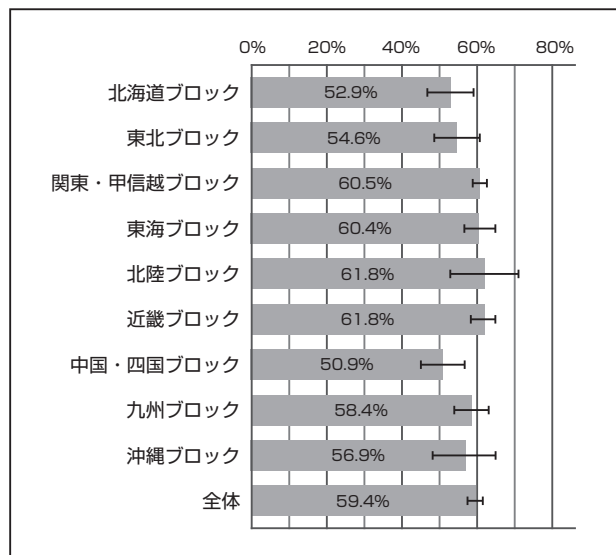
HIRI-MSM	本研究の該当質問	スコア化
How old are you today (yrs)?	年齢を教えてください。	18 歳未満 : 0 18-28 歳 : 8 29-40 歳 : 5 41-48 歳 : 2 49 歳以上 : 0
How many men have you had sex within the last 6 months?	過去 6 ヶ月間の男性のセックスの相手の人数は、何人ですか?	11 人以上 : 7 6-10 人 : 4 0-5 人 : 0
In the last 6 months, how many times did you have receptive anal sex (you were the bottom) with a man?	過去 6 ヶ月間に、何回、受け手側 (ウケ) のアナルセックスをしましたか?	1 回以上 : 10 0 回 : 0
How many of your male sex partners were HIV positive?	これまでに、HIV 陽性の男性のセックスの相手が何人いましたか?	2 人以上 : 8 1 人 : 4 0 人 : 0
In the last 6 months, how many times did you have insertive anal sex (you were the top) with a man who was HIV positive?	過去 6 ヶ月間に、HIV 陽性の男性と、挿入側 (タチ) アナルセックスを何回しましたか?	5 回以上 : 6 0 回 : 0
In the last 6 months, have you used methamphetamines such as crystal or speed?	次のドラッグ・薬物を、セックスの場面に限らず最後に使ったのはいつですか? — 覚せい剤 (シャブ・エス・スピード・アイス・クリスタルメス)	1 ヶ月以内 / 2 ヶ月～6 ヶ月以内 : 5 7 ヶ月～1 年未満 / 1 年以上前 / 使ったことはない : 0
In the last 6 months, have you used poppers (amyl nitrate)?	次のドラッグ・薬物を、セックスの場面に限らず最後に使ったのはいつですか? — ラッシュ (亜硝酸アミル系・ポッパー・RUSH)	1 ヶ月以内 / 2 ヶ月～6 ヶ月以内 : 3 7 ヶ月～1 年未満 / 1 年以上前 / 使ったことはない : 0

表 1.3 地域別の HIV 感染リスクスコア

	HIV 感染リスクスコア*			合計
	0-9	10-47	NA	
北海道ブロック	115	129	14	258
東北ブロック	129	155	12	296
関東・甲信越ブロック	1,186	1,818	256	3,260
東海ブロック	247	377	44	668
北陸ブロック	39	63	6	108
近畿ブロック	400	647	111	1,158
中国・四国ブロック	165	171	22	358
九州ブロック	243	341	33	617
沖縄ブロック	66	87	14	167
合計	2,599	3,809	513	6,921

\* カイ二乗統計量 23.75、p 値 0.0047 (自由度 9、NA 除く)

図 1.4 HIV 感染リスク高スコア群(10 点以上)の割合 (± 95% 信頼区間) ※ HIV 陽性者除く



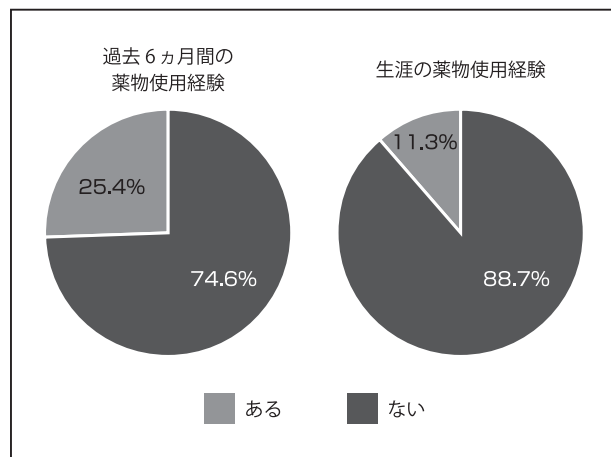
HIRI-MSM のスコアは、地域と HIV 感染リスクスコア (NA 除く) の関係性には有意な差が確認出来たものの (カイ二乗統計量 = 23.75、p=0.0047)、各地域と全体の高スコア群 (10-47 点) の割合を比較すると、顕著な差はあまり確認できなかった。全体だと高スコア群が 59.4% であり、地域によってはそれ以上あるいはそれ以下の割合だが、95% 信頼区間は殆どの場合で重なっている。ただし、中国・四国ブロックに関しては高スコア群の割合が全体と比較して低い傾向にある。

### 薬物使用経験

本研究では、回答者の薬物使用の傾向と、性行動や精神的健康度との関連も調べた。これまでに誰かがドラッグ・薬物を使用しているのを見たことがあると回答した人の割合は 41.4% (2,865/6,921) で、

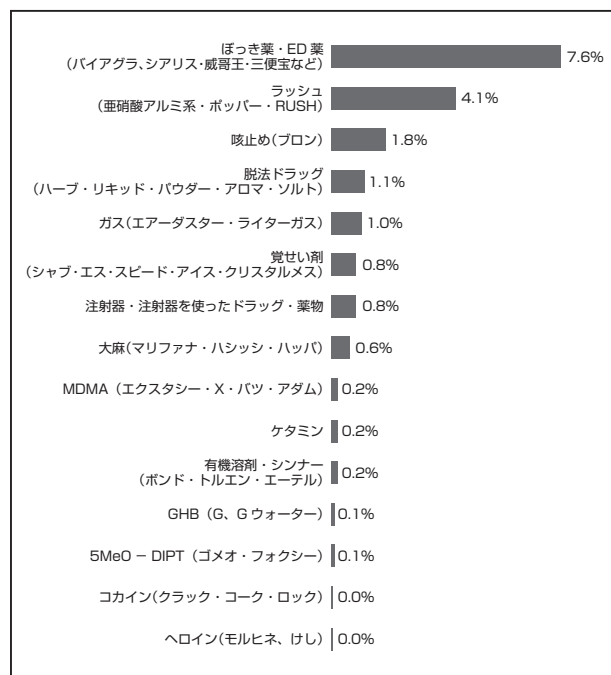
半数近い回答者に薬物使用現場の目撃経験があった。ドラッグ・薬物を実際に勧められた経験がある回答者の割合は 36.1% (2,498/6,921) で MSM を取り巻く環境に身近に薬物使用が存在することが明らかになった。さらに、実際に生涯で薬物使用経験のある人の割合は全体の 25.4% (1,756/6,921) にのぼった。また、過去 6 カ月間に限ると割合は 11.3% (780/6,921) であった (図 1.5)。

図 1.5 薬物使用経験 (生涯 / 過去 6 カ月間) (n=6,921)



解析対象 6,921 人のうち、過去 6 カ月間に最もよく使われていた薬物は多い順にぼっき薬・ED 薬 (7.6%)、ラッシュ (4.1%)、次いで咳止め (ブロン) (1.8%) であった (図 1.6)。

図 1.6 過去 6 カ月間に使用した薬物の種類 (n=6,921)



生涯薬物使用経験者の開始年齢層としては、10歳未満が0.2% (4/1,756)、10～15歳が2.8% (50/1,756)、16～19歳が17.8% (313/1,756)、20～24歳が37.5% (659/1,756)、25～29歳が22.8% (400/1,756)で、全体の約8割が10～20歳代で薬物使用を開始していた。

また、使用に至るきっかけについても、薬物使用経験者の71.9% (1,262/1,756)が相手に誘われてドラッグ・薬物を使用しており、自ら望んで使用した人の割合は19.9% (349/1,756)であった。尚、自分の知らないうちに相手に摂取させられたと回答した人も8.3% (145/1,756)いた。薬物を初めて使用した場所については、セフレ(セックスフレンド)の家が21.0% (369/1,756)、ハッテン場が18.6% (326/1,756)、ホテルが16.2% (284/1,756)と、性的な場面で使用している人が6割弱いた。一方、初めて薬物を使用した場所が自分の家と回答した人は13.8% (242/1,756)、友達・先輩・後輩の家が7.8% (137/1,756)、パートナーの家が6.6% (116/1,756)であった。尚、クラブで初めて薬物を使用した人の割合は2.8% (49/1,756)で、他の選択肢と比較して特に低かった。

初めて薬物を使用した時に一緒にいた相手に関しては、その場限りのセックスの相手が半数近くの44.3% (778/1,756)、セフレが30.9% (543/1,756)、乱パにいた知らない人が2.8% (50/1,756)と、性的な関係が約8割を占めていた。尚、相手がパートナーだった人の割合は13.3% (234/1,756)で、友達・先輩・後輩が14.9% (262/1,756)であった。自分1人だったという回答者も8.5% (149/1,756)いた。

ドラッグ・薬物を使う理由として最も高かったのは、「セックスの快感を高めたり、アナルセックスの痛みを軽減させるため」で、「そう思う」が52.3% (3,620/6,921)、「ややそう思う」が27.3% (1,887/6,921)で、合わせると79.6% (5,507/6,921)であった。次いで「現実からの逃避、精神的不安を軽減するため」が多く、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせると69.7% (4,823/6,921)であった。一方、ドラッグ・薬物を使わない理由として最も高かったのは、「違法だから」で、「そう思う」が90.8% (6,286/6,921)、

「ややそう思う」が6.1% (425/6,921)、合わせると97.0% (6,711/6,921)であった。「危険だから」を理由とする回答者も多く、「そう思う」が89.6% (6,203/6,921)、「ややそう思う」が7.8% (540/6,921)、合わせると97.4% (6,743/6,921)であった。

### 薬物使用経験と性行動

過去6ヶ月間の薬物使用経験と、同時期における以下の性行動との関連性を調べた：①コンドームなしアナルセックスの経験、②セックスパートナーの数、③一度に2人以上の男性とセックスをした経験、④セックスをすることで金銭を受け取った経験。薬物使用経験の有無別の各性行動の割合と、ロジスティック回帰分析の結果を下記に示す(図1.7、表1.4)。

図 1.7 薬物使用経験別の性行動

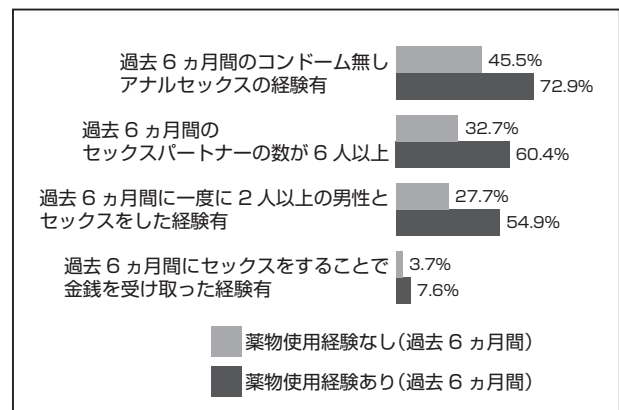


表 1.4 薬物使用経験と性行動のロジスティック回帰分析結果

従属変数	薬物使用経験(過去6ヶ月間)	aOR	95% CI	p-value
過去6ヶ月間のコンドームなしアナルセックスの経験 (0: No, 1: Yes)	なし	Ref		
	あり	2.92	2.46-3.46	***
過去6ヶ月間のセックスパートナーの数が6人以上 (0: No, 1: Yes)	なし	Ref		
	あり	2.75	2.34-3.22	***
過去6ヶ月間に一度に2人以上の男性とセックスをした経験 (0: No, 1: Yes)	なし	Ref		
	あり	2.63	2.25-3.08	***
過去6ヶ月間にセックスをすることで金銭を受け取った経験 (0: No, 1: Yes)	なし	Ref		
	あり	2.31	1.69-3.18	***

オッズ比は年齢層、教育レベル、HIVステータスで調整  
\*p<0.05; \*\*p<0.01; \*\*\*p<0.001

過去6ヵ月間に薬物を使用した経験がある人のうち、同時期にコンドームなしのアナルセックスを経験した割合は72.9%で、薬物使用経験のない人の45.5%より約1.6倍高かった。また、年齢層(19歳未満、19-34歳、35-49歳、50-64歳、65歳以上)、教育レベル(大学在学/卒業未満、大学在学/卒業以上)、HIVステータス(陰性、不明、陽性)で調整したオッズ比を見ると、過去6ヵ月間に薬物を使用した経験がある人は、使用していない人と比べて同時期にコンドームなしのアナルセックスを経験したオッズが2.92倍(95%信頼区間:2.46-3.46)高かった。その他の性行動も薬物使用経験の有無と統計的に有意に関連していることが確認された(p<0.001)。

併せて、薬物使用経験と精神的健康度との関連性も調べた。精神的健康度に関する6つの質問(Q91)の回答を基にK6スケール(Kessler et al., 2002)を算出したところ、平均値は6.6(95%信頼区間:6.4-6.7)で、中央値は5であった。また、24点満点中13点以上の高スコア群は15.7%(95%信頼区間:14.9%-16.6%)であった。K6スケールを低スコア群(12点以下)と高スコア群(13点以上)の二値変数にし、過去6ヵ月間の薬物使用経験の有無との関連性を調べた結果を以下に示す(図1.8、表1.5)。

過去6ヵ月間の薬物使用経験がある人のうち、K6スケールの高スコア群の割合は17.3%であり、薬物使用経験のない人の15.5%よりやや高い。しかし、ロジスティック回帰分析で算出した調整済み

オッズ比は1.10(95%信頼区間:0.89-1.35)であり、その関連性は統計的に有意ではなかった。

図 1.8 薬物使用経験別の精神的健康度

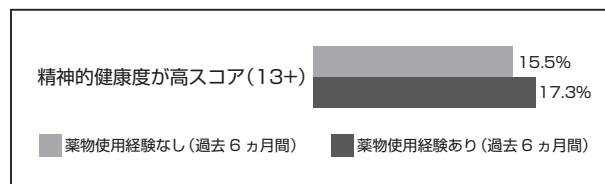


表 1.5 薬物使用経験と精神的健康度のロジスティック回帰分析結果

従属変数	薬物使用経験(過去6ヵ月間)	aOR	95% CI	p-value
精神的健康度 (0: 低スコア11, 高スコア)	なし	Ref		
	あり	1.10	0.89-1.35	0.385

オッズ比は年齢層、教育レベル、HIVステータスで調整  
\*p<0.05; \*\*p<0.01; \*\*\*p<0.001

### 逆境的小児期体験

本研究では、MSMの幼少時代のトラウマ歴とHIV・薬物使用の関連についても、探索的な把握と検討を行った。解析対象者6,921人のうち、子どもの頃にいじめられた経験のあると答えた人の割合は約68%、強制的行為経験は12歳以前で約12%、思春期以降で約15%にのぼった。

先行研究ACE STUDY(Fellitti et al., 1998)を参考にしつつ、本研究は逆境的小児期体験を独自にスコア化した。下記8つの質問に対して、「ある/はい」と回答した質問一つに対して1スコアとし、合計スコアを最低0点、最高8点の範囲でスコア化を行った(表1.6)。

表 1.6 逆境的小児期体験のスコア化方法

質問	回答	スコア	集計
1 子どもの頃に、いじめられたことがありますか?	ある (セクシュアリティと関連)	1	34.5% (2,391/6,921)
	ある (セクシュアリティと無関係)		33.6% (2,327/6,921)
2 親から、暴言をはかれたり、両親のDVを見ていた	はい	1	20.2% (1,395/6,921)
3 親からの暴力や体罰を受けていた	はい	1	17.0% (1,174/6,921)
4 親から、十分な世話や関心を向けてもらえなかった	はい	1	16.2% (1,122/6,921)
5 家族に、アルコールやギャンブル、薬物などの問題(依存)をもつ人がいた	はい	1	14.3% (988/6,921)
6 家族内で、自殺をした人がいる	はい	1	4.2% (294/6,921)
7 12歳以前に、年上の相手から性行為を求められたり、強制されたりしたことがある	1回	1	6.5% (449/6,921)
	2回以上		5.4% (374/6,921)
8 思春期以降、自分が望まない性行為を強制されたことがある	1回	1	7.8% (537/6,921)
	2回以上		6.9% (478/6,921)



上記の表 1.6 に沿って計算した合計スコアを「0」、  
「1」、「2」「3」「4+」の 4 グループに分けた集計を  
下記に示す(表 1.7)。

表 1.7 合計スコアの集計

合計スコア	n	%
0	1,327	19.2%
1	2,733	39.5%
2	1,244	18.0%
3	759	11.0%
4+	858	12.4%
	6,921	100%

最も多いのはスコア 1 のグループで(39.5%)、  
80% 以上の回答者がスコア 1 以上であった。算出  
した合計スコアと、HIV ステータス及び生涯の薬物  
使用経験との関連性をロジスティック回帰分析で調  
べた結果を下記に示す(表 1.8)。尚、オッズ比は年  
齢層(19 歳未満、19-34 歳、35-49 歳、50-64 歳、  
65 歳以上)と教育レベル(大学在学/卒業未満、大  
学在学/卒業以上)で調整した。

スコアが 4 以上の人は、スコアが 0 の人と比べ  
て HIV ステータスが陽性であるオッズが 1.83 倍高  
かった(p<0.001)。また、逆境的小児期体験のスコ  
アと薬物使用経験が強く関連していることが確認  
できた。スコアが 1 の人は 0 の人と比べて薬物使  
用経験があるオッズが 1.42 倍高く(p<0.001)、そ  
のオッズはスコアが上がるごとに増えていた(4+  
の調整済オッズ比は 2.24)。

## トランスジェンダー

本研究の回答者の中には 83 人のトランスジェン  
ダーが含まれていた。該当者の特徴を下記に示す。

6,921 名のうち、トランスジェンダー等であると  
答えた回答者は 83 人(トランス女性 41 人、トラ  
ンス男性 23 人、他 19 人、平均年齢 31.0 歳(95%  
信頼区間:29.1-32.9))いた。過去 6 ヶ月間のセッ  
クスの相手の数などの性行動の傾向は個人差が大き  
く、トランス男性ではアナルセックスだけでなく  
膣性交を行ったと回答した人も一定数いた。他方、  
HIV 感染と治療の効果に関する知識を持っていた  
のは 3 割前後で、HIV 検査の受検率も半数以下で  
あったことから、HIV/エイズに関する意識や情報  
の把握には課題があると推察された。とりわけトラ  
ンス男性においては、HIV が「身近ではない」・「全  
く身近ではない」と回答した人の割合があわせて  
60.9%と高率であった。今後、ゲイ向け出会い系  
アプリを利用するトランスジェンダーの多様な性に  
配慮した情報提供や支援へのニーズを一層理解する  
必要があると考えられる。

表 1.8 逆境的小児期体験と HIV ステータス / 薬物使用経験のロジスティック回帰分析結果

従属変数	スコア	n	HIV 陽性者 / 薬物使 用者の割合 (%)	aOR	95% CI	p-value
HIV ステータス (0 : 陰性 / 不明、1 : 陽性)	0	1,327	5.2%	Ref		
	1	2,733	7.4%	1.32	0.99-1.76	0.054
	2	1,244	6.8%	1.15	0.83-1.61	0.406
	3	759	8.7%	1.48	1.04-2.11	*
	4+	858	10.6%	1.83	1.31-2.55	***
生涯の薬物使用経験 (0 : ない、1 : ある)	0	1,327	17.4%	Ref		
	1	2,733	24.4%	1.42	1.20-1.68	***
	2	1,244	26.4%	1.54	1.26-1.86	***
	3	759	30.6%	1.85	1.49-2.29	***
	4+	858	34.6%	2.24	1.82-2.75	***

オッズ比は年齢層、教育レベル、HIV ステータスで調整

\*p<0.05; \*\*p<0.01; \*\*\*p<0.001

## 地域別の回答割合

尚、住民基本台帳人口（平成 26 年）から男性人口と本調査の回答数を比較すると、全国平均で男性人口 10 万人あたり 11.1 人の回答であり、回答割合には地域差があった（表 1.9）。

表 1.9 回答者と地域によるバイアスについて

都道府県	男性人口 10 万人あたりの本調査回答人数
全国	全国平均：11.1
10～20 人	東京都：25.5、沖縄県：23.3、大阪府：15.3、福岡県：14.5、神奈川県：11.6、京都府：11.4、千葉県：10.4、愛知県：10.3、北海道：10.0
7～9 人	埼玉県：9.5、宮崎県：8.9、宮城県：8.8、岡山県 8.3、栃木県：8.3、香川県：8.3、兵庫県：8.2、静岡県：8.1、鹿児島県：8.0、滋賀県：8.0、奈良県：8.0、石川県：7.9、青森県：7.6、富山県：7.2、三重県：7.2、高知県：7.1
4～6 人	大分県：6.9、岩手県：6.9、茨城県：6.8、山口：6.8、山梨県：6.7、福井県：6.7、岐阜県：6.5、長崎県：6.3、和歌山県：6.3、熊本県：6.1、広島県：6.1、群馬県：5.9、愛媛県：5.8、福島県：5.6、長野県：5.3、新潟県：5.1、山形県：5.1、島根県：5.0、鳥取県：5.0、佐賀県：5.0、秋田県：4.4、徳島県：4.1

## 3. 啓発について

単純集計をとりまとめ、2017 年 11 月 20 日に報告書を印刷し、web 上にも PDF を公開した。また、大阪、福岡、東京、札幌、那覇にて報告会を開催し、多くの当事者や関係者に報告を行った。さらに、「意外と知らない僕らのリアルなセックスライフ—LASH 調査報告書—」という冊子を発刊し、今後、MSM を対象に配布を行う予定である。

## D 考察

### 薬物使用の傾向

本研究では、MSM の出会いに関連した環境が個人の性行動や薬物使用行動に与える影響を調べた。これまでに誰かが薬物を使用しているのを見たことがあると回答した人の割合は 41.4% (2,865/6,921) で、半数近い回答者に薬物使用現場の目撃経験があった。また、薬物を実際に勧められた経験がある回答者の割合は 36.1% (2,498/6,921) で、MSM を取り巻く環境に身近に薬物使用が存在することが明らかになった。

薬物を初めて使用した場所については、セフレの家、ハッテン場、ホテルなど、特に性的な場面での

使用開始が 6 割弱を占めていた。一方、自分の家、友達・先輩・後輩の家、パートナーの家といった、一般の生活の場で薬物を初めて使用した回答者も 3 割弱いた。クラブで初めて使用した回答者は 2.8% で、低率であった。使用開始時の相手に関しても、その場限りのセックスの相手、セフレなどの性的な関係者が約 8 割を占めていた。パートナー、友達・先輩・後輩といった関係の人と使用した回答者は全体の 3 割弱であった。よって、MSM が初めて薬物を使用する際、セフレやその場限りのセックスの相手といった性的な関係の人と、彼らの家やハッテン場といった性的な場面で起きている傾向が高いことが明らかになった。

薬物を使わない理由として、「違法だから」や「危険だから」と思う人は 9 割以上占めていた一方、薬物を使う理由として、「セックスの快感を高めたり、アナルセックスの痛みを軽減させるため」や「現実からの逃避、精神的不安を軽減するため」と思う人が多かった。MSM の間では、薬物が違法で危険であるという認識はあるものの、性的な場面での快楽や、メンタル面の不安低減といった気持ちがそれを上回り、結果的に薬物を使用するに至っている可能性が示唆された。

薬物使用の開始経験に関しては、回答者の約 8 割が 10～20 歳代で薬物使用を開始していた。使用に至るきっかけについては、使用経験者の 7 割強が、相手に誘われてドラッグ・薬物を使用しており、自ら望んで使用した人の割合は 2 割であった。性的な出会いのなかで、相手に誘われて使用開始に至る場合が多く、性的なコミュニケーションのなかで、どのように不使用に至るかが課題であると考えられる。

また、性行為の強制については、12 歳以前に経験した人の割合は 11.9% (823/6,921) で、思春期以降では 14.7% (1,015/6,921) であった。一方、薬物使用経験のある 1,756 人のうち、自分の知らないうちに相手からなんらかの薬物を摂取させられたと回答した人も 8.3% (145/1,756) 存在した。本研究では具体的な状況までは収集していないものの、強制性行為時に薬物を体内に入れられた可能性もあり得る。こうした結果を踏まえると、MSM における薬物使用には強制性行為の問題も絡んでいる

ことが懸念される。

## 薬物使用と性行動

本調査の回答者の6割以上は生涯にHIV検査受検経験があるものの、半数以上が過去6ヵ月間にコンドーム無しのアナルセックスを経験している。つまり、HIV/エイズに関する知識はあるものの、実際に性行為の場面で予防行動を実践出来ていないということが示唆された。こうしたHIV感染リスクの高い性行動と薬物使用経験との関連性を調べたところ、過去6ヵ月間の薬物使用経験は、同時期における以下の性行動との関連性が認められた：①コンドームなしアナルセックスの経験、②セックスパートナーの数、③一度に2人以上の男性とセックスをした経験、④セックスをすることで金銭を受け取った経験。

先行研究でも、類似した結果が確認されている。例えばペルーのMSMを対象とした研究(Ludford et al., 2013)では、過去3ヵ月間の薬物使用はセックスパートナーの数、セックスワーク経験の有無、コンドームなしアナルセックス経験の有無と関連していることが確認された。英国のHIV陽性のMSM対象の研究(Daskalopoulou et al., 2014)では、過去3ヵ月間の薬物使用経験は約51%となっており、本研究よりも顕著に高い値となっている。ただし、覚せい剤使用がコンドームなしのアナルセックス経験と関連していることが確認されており、本研究と類似した結果となっている。日本と地理的に近い中国長沙市のMSMを対象とした研究(Chen et al., 2015)では、過去6ヵ月間の薬物使用経験は約21%で、英国のデータよりは低いものの、それでも本研究よりは高い値であった。また、薬物使用はセックスパートナーの数やグループセックス経験の有無と関連していることが確認されたが、コンドームなしアナルセックス経験の有無との関連性は認められなかった。この点については、本研究とやや異なっていた。

本研究は横断研究であるため、薬物を使用したからHIV感染リスクの高い性行動をとっているのか、或いは元々HIV感染リスクの高い性行動をする集団は薬物に手を出しやすいのか、その前後関係は明らかになっていない。ただし少なくとも、日本の出

会い系アプリを利用するMSMにおいて、薬物使用とHIV感染リスクの高い性行動に強い関連性がある可能性が示唆された。より効果的なHIV予防・薬物防止啓発活動を実施するためにも、薬物を使用するMSMのニーズを量的・質的双方の視点で適切にみ取っていく必要があると考えられる。

## 逆境的小児期体験と薬物使用

いじめや親からの虐待といった幼少時代の逆境体験が重なるほど、薬物乱用やHIV感染リスクの高い性行動をとることが示唆されている(Fellitti et al., 1998)。本研究でも、HIV感染と薬物使用が子どもの頃の逆境体験に関連しているという結果になり、先行研究の主張は日本の出会い系アプリを利用するMSMにおいても通用すると考えられる。独立変数として用いた逆境的小児期体験は過去の話を通じて聞いているため、前後関係としては、逆境体験が重なるほど、HIV陽性になったり、薬物使用を経験したりする可能性が示唆された。効果的な薬物防止活動を実施するためには、薬物を使用するMSMのトラウマや逆境を理解した上での心のケアと介入が有益と考えられる。

## HIV感染リスク(HIRI-MSM参考)

本研究では、HIRI-MSMを参考にしたHIV感染リスクスコアの高スコア群(10点以上)の割合が、該当する回答者の59.4%であった。米国におけるHIV予防ガイドラインでは、MSMにおいてこのHIRI-MSMスコアが高い(10点以上)場合は、通常のHIV感染予防サービスに加え、PrEP(Pre-Exposure Prophylaxis; 暴露前予防投与)実施に対する適応性を評価するなど重点的なHIV予防サービスを実施すること、とされている。本研究においてHIRI-MSMの高スコア者が過半数を超えていたということは、わが国においてもPrEPの潜在的適応者が決して少なくないことが示唆された。

## トランスジェンダー

MSMの出会いや交流を目的に運営されるGPSつきアプリで行った調査による回答者の1%がトランスジェンダーであった。HIV検査の受検率が半数以下と低く、回答者全体に比べるとHIVの身近感、



知識ともにも低率であり、啓発に課題があることが示された。今後はMSM & TG(トランスジェンダー)というような幅の啓発が必要とされる。

## 研究の限界

まず、本研究で対象となった母集団は1つの出会い系アプリを利用するMSMであり、必ずしも日本のMSMの代表ではない。今回の調査で協力を得たN社が運営するゲイ向け出会い系アプリは国内最大とされている。しかし、国内で利用出来るMSM向け出会い系アプリはいくつか存在し、そもそも出会い系アプリを利用しないMSMは最初から対象から外れている。そのため、本研究は回答者が一つのアプリ利用者限定されているという限界がある。

また、本研究では地域の男性人口ごとに、MSMが存在するという前提条件で検討すると、回答者の偏りがある。GPS機能付きの出会い系アプリ利用者を対象としているためか、大都市とその周辺部の回答者が多い(表1.9参照)。男性人口10万あたりで回答者数を比較すると東京や大阪などの大都市と沖縄県の回答割合が多い。本調査では、人口移動や偏在についての把握には限界がある。

以上の二つの限界から、本調査結果は日本全国のMSMを必ずしも代表していないが、国内最大のアプリ利用者の基礎的な特性の把握という点で意義があると考えられる。

## E 結論

MSM向けGPS機能付き出会い系アプリ利用者を対象に、MSMの出会いに関連した環境が個人の性行動や薬物使用行動に与える影響についてWeb調査を行った。回答を開始した10,544人のデータをクリーニングし、6,921人を解析対象とした。回答者の平均年齢は33.8歳であった。

回答者のセクシュアリティは95.8%がゲイ・バイセクシュアル男性であった。また、回答者の性別は「男性」だけでなく「トランスジェンダー」や「その他(X. わからない)」と自認する人もいた。さらに、回答者の性の興味の対象も、「男性だけ」が約8割と多数ではあったが、約2割は男女を対象にして

おり、MSMのセクシュアリティの多様さが改めて確認された。今後、MSMを対象としたHIV予防啓発をするうえで、こうした多様さの実態を踏まえていくことが必要であることが示唆された。

MSMを取り巻く環境に身近に薬物使用が存在することが明らかになり、回答者のうち、生涯で薬物使用経験のある人は全体の約1/4、過去6ヵ月間に限ると約1割であった。また、回答者の約8割が10~20歳代で薬物使用を開始していた。使用に至るきっかけについては、使用経験者の7割強が、相手に誘われてドラッグ・薬物を使用しており、場所や相手は6~7割がセックスに関連するものであり、使用のきっかけの7割は「相手に誘われて」であった。薬物を使わない理由について「違法だから」や「危険だから」と思う人は全体の9割以上占めていた。他方、使う理由については「セックスの快感を高めたり、アナルセックスの痛みを軽減させるため」が全体の8割、「現実からの逃避、精神的不安を軽減するため」が全体の7割であった。さらに、過去6ヵ月間に薬物を使用した経験がある人は、使用していない人と比べて同時期にコンドーム無しのアナルセックスを経験した人が有意に多かった。これらのことより、MSMの間では、薬物が違法で危険であるという認識はある一方で、性的な場面での快楽や、メンタル面の不安低減といった気持ちがあり、結果的に薬物を使用するに至っている可能性が示唆された。また、薬物使用とHIV感染リスクの高いその他の性行動にも強い関連性がある可能性が示唆された。より効果的なHIV予防・薬物防止啓発活動を実施するためにも、薬物を使用するMSMのニーズを量的・質的双方の視点で適切に読み取っていく必要があると考えられる。

そして、幼少期の虐待やいじめ経験といった逆境的小児期体験は、薬物使用経験と強く関連していることが確認出来た。効果的な薬物防止活動を実施するためには、薬物を使用するMSMのトラウマや逆境を理解した上での心のケアと介入が有益だと考えられる。

今後、若年層の性の目覚めに関連した時期への介入、性の出会いの際のコミュニケーションにおける、使用/不使用の分岐に関わる要因について明らかにしていきつつ、啓発に役立てたいと考えている。



## 参考文献

- 1) 生島嗣、野坂祐子他 . 2013. 薬物使用者を対象にした聞き取り調査—HIVと薬物使用との関連要因をさぐる—厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業 平成 25 年度総括・分担研究報告書 . 地域において HIV 陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究 , 97-104.
- 2) 生島嗣、野坂祐子他 . 2014. 薬物使用者を対象にした聞き取り調査—HIVと薬物使用との関連要因をさぐる—厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業 平成 26 年度総括・分担研究報告書 . 地域において HIV 陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究 , 189-202.
- 3) 総務省統計局 . 2015. 平成 27 年国勢調査 . 総務省 . <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/index.html>
- 4) 若林チヒロ、生島嗣、大槻知子 . 2014. 身近な人から薬物使用について相談されたら 厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業 地域において HIV 陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究 , 1-4.
- 5) Chen, X., Li X., Zheng, J., Zhao, J., He, J., Zhang, G. and Tang, X. 2015. Club Drugs and HIV/STD Infection: An Exploratory Analysis among Men Who Have Sex with Men in Changsha, China. PLoS ONE 10(5): e0126320.
- 6) Daskalopoulou, M., Rodger, A., Phillips, A.N., Sherr, L., Speakman, A., Collins, A., Elford, J., Johnson, M.A., Gilson, R., Fisher, M., Wilkins, E., Anderson, J., McDonnell, J., Edwards, S., Perry, N., O'Connell, R., Lascar, M., Jones, M., Johnson, A.M., Hart, G., Miners, A., Geretti, A., Burman, W.J. and Lampe, F.C. 2014. Recreational drug use, polydrug use, and sexual behaviour in HIV-diagnosed men who have sex with men in the UK: results from the cross-sectional ASTRA study. Lancet HIV 1(1): e22-e31.
- 7) Felitti, V.J., Anda, R.F., Nordenberg, D., Williamson, D.F., Spitz, A.M., Edwards, V., Koss, M.P. and Marks, J.S. 1998. The

relationship of adult health status to childhood abuse and household dysfunction. American Journal of Preventive Medicine 14: 245-258.

8) Kessler, R.C., Andrews, G., Colpe, L.J., Hiripi, E., Mroczek, D.K., Normand, S.L., Walter, E.E. and Zaslavsky, A.M. 2002. Short screening scales to monitor population prevalences and trends in non-specific psychological distress. Psychological medicine 32(6): 959-976.

9) Ludford, K.T., Vagenas, P., Lama, J.R., Peinado, J., Gonzales, P., Leiva, R., Pun, M., Sanchez, J. and Altice, F.L. 2013. Screening for Drug and Alcohol Use Disorders and Their Association with HIV Related Sexual Risk Behaviors among Men Who Have Sex with Men in Peru. PLoS ONE 8(8): e69966.

10) Smith, D.K., Pals, S.L., Herbst, J.H., Shinde, S. and Carey, J.W. 2012. Development of a clinical screening index predictive of incident HIV infection among men who have sex with men in the United States. JAIDS Journal of Acquired Immune Deficiency Syndromes 60(4): 421-427.

## **F** 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) 生島嗣 . 就労支援 . 小西加保留編 , HIV/AIDS ソーシャルワーク . 中央法規出版 . 175-189, 2017.
- 2) 生島嗣 . パートナー・家族への支援 . 小西加保留編 , HIV/AIDS ソーシャルワーク . 中央法規出版 . 162-175, 2017.
- 3) 生島嗣 . HIV と性の健康 . 関西性教育研修セミナー 10 周年記念誌 性について、語る、学ぶ、考える . 44-47, 2017.

### 2. 学会発表

- 1) 大槻知子、生島嗣、三輪岳史、池上千寿子、樽井正義 . ゲイ向け GPS 機能付き出会い系アプリを利用するトランスジェンダー等の性の健康に関する

調査 . GID (性同一性障害)学会、2018 年、東京 .

2) 生島嗣、三輪岳史、山口正純、大槻知子、藤田彩子、及川千夏、若林チヒロ、大島岳、井上洋士、仲倉高広、樽井正義 . GPS 機能付き出会い系アプリを利用する MSM を対象にした、薬物使用、性行動、意識に関する LASH(Love life And Sexual Health) 調査概要 . 日本エイズ学会、2017 年、東京 .

3) 野坂祐子、生島嗣、三輪岳史、樽井正義、山口正純、大槻知子、藤田彩子、及川千夏、大島岳 . MSM の薬物使用及び HIV 感染と児童期の逆境体験との関連 . 日本エイズ学会、2017 年、東京 .

4) 三輪岳史、山口正純、及川千夏、大槻知子、藤田彩子、若林チヒロ、生島嗣、樽井正義 . 薬物使用と性行動と精神的健康度の関連性— MSM 向け出会い系アプリ利用者の意識や行動に関する調査から— . 日本エイズ学会、2017 年、東京 .

5) 山口正純、三輪岳史、及川千夏、藤田彩子、大槻知子、生島嗣、樽井正義 . わが国の MSM における PrEP および nPEP の認知度、利用経験、利用意向に関する分析—ゲイ向け GPS アプリ利用者の意識や行動に関する LASH 調査から— . 日本エイズ学会、2017 年、東京 .

6) 仲倉高広、生島嗣、井上洋士、及川千夏、大島岳、大槻知子、野坂祐子、林神奈、藤田彩子、三輪岳史、山口正純、若林チヒロ、樽井正義 . LASH(Love life And Sexual Health) 調査における自己評価関連項目とコンドーム使用状況との関連について . 日本エイズ学会、2017 年、東京 .

7) 大槻知子、生島嗣、三輪岳史、及川千夏、樽井正義 . ゲイ向け GPS アプリを利用するトランスジェンダー等の調査 . 日本エイズ学会、2017 年、東京 .

8) 井上洋士、生島嗣、三輪岳史、及川千夏、樽井正義 . GPS 機能付き出会い系アプリを利用する MSM における Sexual Compulsivity スケール日本語版 Ver.1 の信頼性、妥当性の検討 . 日本エイズ学会、2017 年、東京 .

9) Yamaguchi, M., Miwa, T., Ohtsuki, T., Ikushima, Y., and Tarui, M. Awareness, utilization and willingness to use PrEP among Japanese MSM using geosocial-networking application. The 9th IAS Conference on HIV Science, July 23-26, 2017, Paris, France.

## 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

添付資料

「平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業 LASH 調査報告書」

平成 29 年度 厚生労働科学研究費補助金  
エイズ対策政策研究事業

「LASH 調査」報告書  
2017 年



地域において HIV 陽性者と薬物使用者を支援する研究班



## 研究要旨

これまでの HIV 陽性の MSM (男性とセックスを行う男性 /Men who have Sex with Men) を対象にした研究から、MSM の薬物使用と性行動には密接なつながりがあり、ハッテン場やゲイ向けクラブ等での薬物の販売や使用を目撃したり、セックスの相手から勧められたりしたことがきっかけとなって、薬物使用が開始される場合があることが確認されている。また、薬物使用の開始時期の多くは感染判明前であることが明らかになっている。本研究では、MSM の出会いに関連した環境が個人の性行動や薬物使用行動に与える影響を把握することを目的に、多くの MSM が出会いや交流を目的に利用する国内最大のゲイ向けアプリ業者の協力を得て、その利用者にターゲットを絞った調査を行った。

調査協力を得たアプリ上で 1 ヶ月にわたり広告を出稿し、調査の説明サイトへの誘導を行った。そのアクセスは 24,977 人であり、そのうち説明に同意し、回答を試みた者は 10,544 人であった。MSM 向けの出会い系アプリ利用者の特性を把握するのに役立つデータが収集できた。全問 (97 問) に回答した者は 72% (7,587 人) であった。そのうち、矛盾回答や重複回答などを除外し、6,921 人の回答を分析対象とした。

### 研究目的

MSM の出会いに関連した環境が個人の性行動や薬物使用行動に与える影響を把握することを目的とし、薬物使用をしない、止める、そして HIV 感染を防ぐ方向に作用する要因を明らかにし、HIV 感染予防を促進するために必要な支援策を探る。

### 研究方法

web アンケート調査の広報に役立てるため、web「LASH.online」を立ち上げた。このサイトは主にゲイ・バイセクシュアル男性を対象に、LOVE ライフ、セクシュアルヘルス (性の健康)、メンタルヘルス (こころの健康、薬物使用など) に関する情報を発信している。また、研究成果のフィードバックもこのサイトを通して行う予定である。

### 【調査期間】

調査期間は、2016 年 9 月 22 日～同年 10 月 22 日であった。

### 【調査方法】

出会いを目的としたアプリを利用する、ゲイ・バイセクシュアル男性 (トランス男性などを含む) を対象に調査を実施した。N 社が運営する国内最大のアプリの起動時にランダムに表示されるバナー広告を有償で出稿し、調査の説明を行うための一般からはアクセスできない限定公開ページに誘導し、同意を得た者に web アンケートを表示した。調査の流れは、N 社が運営するアプリ上に出稿したバナー広告から、調査説明ページ (限定公開ページ)、web アンケートであった。

今回の調査で協力を得た N 社が運営するゲイ向け出会い系アプリは国内最大で、日本全国及びアジアに 26 万人の会員がおり、アクティブユーザーは 15 万人だという。また、責任者によると、国内ユーザーが 6 割で、10 代～20 代のユーザーが半分を占めるという。このアプリ運営者に宣伝段階から協力を依頼した。

調査項目については次頁に掲載する。

**【調査項目】**

**属性**

- |         |               |                      |
|---------|---------------|----------------------|
| Q 1. 性別 | Q 2. セクシュアリティ | Q 3. トランス・ゲイ男性との交流経験 |
| Q 4. 年齢 | Q 5. 居住地      | Q 6. 国籍              |
| Q 7. 学歴 | Q 8. 主な職業     | Q 9. 性の興味の対象         |

**パートナーシップ制度の利用**

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| Q 10. 結婚やパートナーシップ | Q 11. パートナーシップ制度の利用意向 |
|-------------------|-----------------------|

**思春期**

- |                   |                    |                    |
|-------------------|--------------------|--------------------|
| Q 13. セックスの初体験の時期 | Q 14. 初めて友達ができえた時期 | Q 15. 初めて恋人ができえた時期 |
|-------------------|--------------------|--------------------|

**パートナーシップと性行動**

- |  |                            |                      |
|--|----------------------------|----------------------|
| Q 12. 過去 6 ヶ月間に利用 (参加) したツール / 施設 / グループなど |                            |                      |
| Q 16. 過去 6 ヶ月間のセックスの人数                     | Q 17. 過去 6 ヶ月間の複数でのセックスの経験 |                      |
| Q 18. 出会いの場面での態度                           | Q 19. セックスの相手選びで重視すること     | Q 20. パートナー選びで重視すること |
| Q 21. 過去の最長の交際期間                           | Q 22. 恋愛とセックスのイメージ         |                      |

**性行動と予防行動 (その場限り / 過去 6 ヶ月)**

- |                     |                                     |
|---------------------|-------------------------------------|
| Q 23. セックスの相手の有無    | Q 24. 直近の相手と知り合ったきっかけ               |
| Q 25. 過去 6 ヶ月間にした行為 | Q 26. コンドームなしフェラチオ                  |
| Q 27. アナルセックスの有無    | Q 28. 「その場限りの相手」とのアナルセックスとコンドーム使用頻度 |

**性行動と予防行動 (セフレ / 過去 6 ヶ月)**

- |                     |                                |
|---------------------|--------------------------------|
| Q 29. セックスの相手の有無    | Q 30. 直近の相手と知り合ったきっかけ          |
| Q 31. 過去 6 ヶ月間にした行為 | Q 32. コンドームなしフェラチオ             |
| Q 33. アナルセックスの有無    | Q 34. 「セフレ」とのアナルセックスとコンドーム使用頻度 |

**性行動と予防行動 (パートナー / 過去 6 ヶ月)**

- |                     |                                  |
|---------------------|----------------------------------|
| Q 35. パートナーの有無      | Q 36. 直近の相手と知り合ったきっかけ            |
| Q 37. 過去 6 ヶ月間にした行為 | Q 38. コンドームなしフェラチオ               |
| Q 39. アナルセックスの有無    | Q 40. 「パートナー」とのアナルセックスとコンドーム使用頻度 |

**HIV 検査に関する会話 / セロソーティング**

- Q 41. セックスの相手から検査結果を質問された経験
- Q 42. セックスの相手に検査結果を伝えた経験
- Q 43. セックスの相手から HIV 検査結果を伝えられた経験
- Q 44. 過去 6 ヶ月間にコンドームなしのアナルセックスをした経験
- Q 45. 過去 6 ヶ月間のセロソーティング等 (陰性同士、陽性同士、治療の効果を確認など)

**HIV 検査行動**

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| Q 46. 過去の受検行動の有無 | Q 47. 最後に受けた検査の時期 |
| Q 48. 検査結果       | Q 49. 受けない理由      |

**性行動と予防行動 (その他)**

- Q 50. 過去 6 ヶ月間の受け手側 (ウケ) のアナルセックスの回数
- Q 51. これまでの HIV 陽性の男性のセックスの相手の人数
- Q 52. 過去 6 ヶ月間の HIV 陽性の男性との挿入側 (タチ) アナルセックスの回数

**PrEP (HIV 暴露前予防) / PEP (HIV 暴露後予防) の意識**

- |                       |                         |
|-----------------------|-------------------------|
| Q 53. PrEP の認知        | Q 54. PrEP の服薬希望        |
| Q 55. PrEP の服用で気になること | Q 56. PrEP のコンドーム使用への影響 |
| Q 57. PEP の認知         | Q 58. PEP の服薬希望         |



【広報】

「なぜなにアンケート LOVE & SEX 調査」とタイトルをつけ、調査の広報の制作には、アプリ業社 N による協力を得た。バナー広告は 5 回に分けて、表示地域を日本国内に限定して、有償で出稿した。調査開始前の 1 週間にわたり、「LASH.online」の宣伝を行った。その後の調査に関する 4 回の広告出稿はデザインを変更しつつ、関心を高める働きかけを行った。



被写体のモデルは、N 社の協力により、N 社登録のイメージモデルから 3 人をリクルートし、有償でイメージモデルを務めてもらった。また、バナー広告には、回答者に安心してもらうため、「LASH.online」と N 社のロゴマークも配置した。

4 回の広告は、1 回目には、先着 500 人にギフト券 (500 円) をプレゼントする旨が表記されていたが、2 日間で予定数に達したため、2 回目以降からは、プレゼントに関する記載はせずに出稿した。

また、調査の説明サイトでは調査開始 3 日後にプレゼントが終了したことを告知した。広告には、回答することがよい振り返りになること、回答には約 30 分を要すること、途中で終了した場合でも、回答内容が保存されていることなどを周知した。

(倫理面への配慮)

調査実施に関しては、NPO 法人ぶれいす東京倫理委員会にて審査を受け、承認された。調査協力者には web サイト上で、匿名の調査であること、自由意志による回答で、いつでも回答が止められることなどについて説明を行い、同意を得た。



## 単純集計結果

結果の読み取りに際して

- ・全ての質問に対して無回答者（途中回答放棄者）を除いて集計した。
- ・複数回答の質問（1つの質問に対して2つ以上の選択肢を選ぶ質問形式）の場合、回答した人の人数を「全体」で示し、それぞれの選択肢に回答した人数の「全体」に対する割合を「%」で示している。そのため、合計すると100.0%を超える場合がある。

### 属性

#### 1 性別

Q. 次のうち、あなたの性別を表す表現として最も近いのはどれですか？

	n	%
男性	6824	98.6%
女性	0	0.0%
トランス男性 (FtM)	23	0.3%
トランス女性 (MtF)	41	0.6%
その他	33	0.5%
合計	6921	100.0%

回答者の98.6%が男性。「トランス男性」、「トランス女性」、「その他」を合わせて1.4%だった。

#### 2 セクシュアリティ

Q. あなたは次のうちどれが一番近いですか？

	n	%
ゲイ	5503	79.5%
バイセクシュアル	1126	16.3%
異性愛者	21	0.3%
決めたくない	139	2.0%
分からない	112	1.6%
その他（具体的に）	20	0.3%
合計	6921	100.0%

「ゲイ」、「バイセクシュアル」合計で95.8%を占め、「決めたくない」、「分からない」という回答者も3.6%いた。

#### 3 トランス・ゲイ男性との交流経験

Q. トランス・ゲイ男性に会ったことがありますか？

	n	%
ある	2472	35.7%
ない	3652	52.8%
分からない	589	8.5%
自分がトランス・ゲイ男性である	208	3.0%
合計	6921	100.0%

Q1の回答と矛盾があるため、回答者が「トランス・ゲイ男性」をどのように捉えたのかを検討する必要がある。

#### 4 年齢

Q. 年齢を教えてください。

	n	%
16歳未満	4	0.1%
16～19歳	221	3.2%
20～24歳	1133	16.4%
25～29歳	1354	19.6%
30～34歳	1121	16.2%
35～39歳	971	14.0%
40～44歳	1106	16.0%
45～49歳	618	8.9%
50～54歳	273	3.9%
55～59歳	90	1.3%
60～64歳	19	0.3%
65～69歳	6	0.1%
70～74歳	2	0.0%
75～79歳以上	3	0.0%
合計	6921	100.0%

10代：3.3%、20代：35.9%、30代：30.2%、40代：24.9%、50歳以上：5.7%であった。10～30代で約7割を占めた。

**5 居住地**

Q. お住まいの場所を教えてください。

	n	%
<b>北海道・東北ブロック</b>		
北海道	258	3.7%
青森県	49	0.7%
岩手県	43	0.6%
宮城県	100	1.4%
秋田県	22	0.3%
山形県	28	0.4%
福島県	54	0.8%
<b>関東・甲信越ブロック</b>		
茨城県	102	1.5%
栃木県	83	1.2%
群馬県	59	0.9%
埼玉県	347	5.0%
千葉県	324	4.7%
東京都	1676	24.2%
神奈川県	528	7.6%
新潟県	58	0.8%
山梨県	28	0.4%
長野県	55	0.8%
<b>北陸ブロック</b>		
富山県	38	0.5%
石川県	44	0.6%
福井県	26	0.4%
<b>東海ブロック</b>		
岐阜県	66	1.0%
静岡県	151	2.2%
愛知県	386	5.6%
三重県	65	0.9%
<b>近畿ブロック</b>		
滋賀県	56	0.8%
京都府	141	2.0%
大阪府	655	9.5%
兵庫県	223	3.2%
奈良県	53	0.8%
和歌山県	30	0.4%
<b>中国・四国ブロック</b>		
鳥取県	14	0.2%
島根県	17	0.2%
岡山県	78	1.1%
広島県	84	1.2%
山口県	46	0.7%
徳島県	15	0.2%
香川県	40	0.6%
愛媛県	39	0.6%
高知県	25	0.4%

九州・沖縄ブロック

福岡県	352	5.1%
佐賀県	20	0.3%
長崎県	42	0.6%
熊本県	52	0.8%
大分県	39	0.6%
宮崎県	48	0.7%
鹿児島県	64	0.9%
沖縄県	167	2.4%
海外	31	0.4%
合計	6921	100.0%

ブロック別で見ると、北海道・東北：8.0%、関東・甲信越：47.1%、北陸：1.6%、東海：9.7%、近畿：16.7%、中国・四国：5.2%、九州・沖縄：11.3%、海外：0.4%であった。

**6 国籍**

Q. あなたの国籍を教えてください。

	n	%
日本	6782	98.0%
韓国・朝鮮	31	0.4%
中国	43	0.6%
フィリピン	9	0.1%
タイ	1	0.0%
米国	7	0.1%
英国	2	0.0%
ブラジル	11	0.2%
ペルー	4	0.1%
不詳	4	0.1%
台湾*	10	0.1%
その他	17	0.2%
合計	6921	100.0%

\*台湾は元々回答選択肢になかったため、「その他」から抽出。国内向け表示によるバナー広告での日本語による調査であったので、回答者の多くが日本国籍だった。

**7 学歴**

Q. あなたの学歴を教えてください。

	n	%
中学在学中・卒業	230	3.3%
高校在学中・卒業	1585	22.9%
専門在学中・卒業	1020	14.7%
高専在学中・卒業	174	2.5%
短大在学中・卒業	219	3.2%
大学在学中・卒業	3098	44.8%
大学院在学中・修了	581	8.4%
その他	14	0.2%
合計	6921	100.0%

「大学在学中・卒業」、「大学院在学中・卒業」が合わせて5割以上と、高学歴な集団だった。

## 8 主な職業

Q. 現在の主な職業を教えてください。

	n	%
学生	750	10.8%
企業・団体の役員	144	2.1%
企業・団体の正社員/正職員	3462	50.0%
公務員	495	7.2%
自営業者(個人・家族経営)	493	7.1%
事業主(従業員を雇用)	38	0.5%
パート・アルバイト	587	8.5%
派遣・嘱託・契約社員/職員	615	8.9%
専業主夫	22	0.3%
ゲイ等のためのサービス業	41	0.6%
無職	220	3.2%
その他	54	0.8%
合計	6921	100.0%

「無職」が3.2%と低く、就労者や就学者が多く回答していた。

## 9 性の興味の対象

Q. 現在のあなたのセックスの興味の対象について伺います。次のどれが一番近いですか？

	n	%
男性だけ	5633	81.4%
男性がメインだが女性も	1043	15.1%
女性がメインだが男性も	82	1.2%
男性と女性と同じくらい	144	2.1%
誰にも性的な興味はない	19	0.3%
合計	6921	100.0%

「男性だけ」という回答が8割、男女とも興味の対象という人が2割近く存在していた。

## パートナーシップ制度の利用

### 10 結婚やパートナーシップ

Q. 女性と結婚

	n	%
一度もしたことがない	4091	59.1%
過去にしたことがある	242	3.5%
現在している	345	5.0%
そもそも希望していない	2243	32.4%
合計	6921	100.0%

Q. 女性と友情結婚(訳知りの相手と)

	n	%
一度もしたことがない	4659	67.3%
過去にしたことがある	78	1.1%
現在している	72	1.0%
そもそも希望していない	2112	30.5%
合計	6921	100.0%

Q. 男性と結婚(法的)

	n	%
一度もしたことがない	6073	87.7%
過去にしたことがある	15	0.2%
現在している	17	0.2%
そもそも希望していない	816	11.8%
合計	6921	100.0%

Q. 男性と式を挙げた(国内、海外)

	n	%
一度もしたことがない	5996	86.6%
過去にしたことがある	16	0.2%
現在している	17	0.2%
そもそも希望していない	892	12.9%
合計	6921	100.0%

Q. 男性パートナーと養子縁組

	n	%
一度もしたことがない	5927	85.6%
過去にしたことがある	14	0.2%
現在している	16	0.2%
そもそも希望していない	964	13.9%
合計	6921	100.0%

Q. 国内のパートナーシップ制度の利用

	n	%
一度もしたことがない	6166	89.1%
過去にしたことがある	12	0.2%
現在している	15	0.2%
そもそも希望していない	728	10.5%
合計	6921	100.0%

**Q. 男性パートナーと任意後見人制度の利用**

	n	%
一度もしたことがない	6132	88.6%
過去にしたことがある	8	0.1%
現在している	9	0.1%
そもそも希望していない	772	11.2%
合計	6921	100.0%

**Q. 海外のパートナーシップ登録制度の利用**

	n	%
一度もしたことがない	5991	86.6%
過去にしたことがある	15	0.2%
現在している	9	0.1%
そもそも希望していない	906	13.1%
合計	6921	100.0%

女性との結婚は、現在・過去を含め8.5%の割合で経験していた。国内や海外の同性パートナーシップ制度の利用者は少数だった。

**11 パートナーシップ制度の利用意向**

**Q. 国内で何らかの同性パートナーシップの法整備がされた場合、その制度を利用したいと思いますか？**

	n	%
はい	2772	40.1%
いいえ	944	13.6%
分からない	3205	46.3%
合計	6921	100.0%

パートナーシップ法が整備された場合、利用意向を持つ人が4割いた。

**思春期**

**13 セックスの初体験の時期**

**Q. 初めて男性とのセックスを経験したのは何歳くらいの時ですか？**

	n	%
10歳未満	109	1.6%
10～15歳	1027	14.8%
16～19歳	2458	35.5%
20～24歳	2125	30.7%
25～29歳	675	9.8%
30～34歳	245	3.5%
35～39歳	95	1.4%
40～44歳	31	0.4%
45～49歳	11	0.2%
50～54歳	4	0.1%
55～59歳	0	0.0%
60～64歳	0	0.0%
65～69歳	0	0.0%
70歳以上	0	0.0%
未経験	141	2.0%
合計	6921	100.0%

初めてセックスをした年齢は、平均20.1歳であった。

**14 初めて友達ができた時期**

**Q. ゲイ・バイセクシュアル、またはトランス・ゲイ男性の友達が初めてできたのは何歳くらいの時ですか？**

	n	%
10歳未満	27	0.4%
10～15歳	426	6.2%
16～19歳	2070	29.9%
20～24歳	2376	34.3%
25～29歳	859	12.4%
30～34歳	415	6.0%
35～39歳	156	2.3%
40～44歳	49	0.7%
45～49歳	22	0.3%
50～54歳	5	0.1%
55～59歳	2	0.0%
60～64歳	0	0.0%
65～69歳	1	0.0%
70歳以上	0	0.0%
いたことがない	513	7.4%
合計	6921	100.0%

初めて友達ができた年齢は、平均21.7歳であった。

**15 初めて恋人ができた時期**

Q. 男性の恋人（以下、パートナー）が初めてできたのは何歳くらいの時ですか？

	n	%
10歳未満	6	0.1%
10～15歳	170	2.5%
16～19歳	1472	21.3%
20～24歳	2192	31.7%
25～29歳	1030	14.9%
30～34歳	406	5.9%
35～39歳	191	2.8%
40～44歳	68	1.0%
45～49歳	21	0.3%
50～54歳	13	0.2%
55～59歳	1	0.0%
60～64歳	1	0.0%
65～69歳	0	0.0%
70歳以上	0	0.0%
いたことがない	1350	19.5%
合計	6921	100.0%

初めて恋人ができた年齢は、平均 22.9 歳であった。

**パートナーシップと性行動**

**12 過去 6 ヶ月間に利用（参加）したツール / 施設 / グループ など**

Q. 次の中で、過去 6 ヶ月間で利用・参加したものを全てお答えください。※複数選択可

	n	%
ゲイバー	3330	48.1%
ゲイナイト(クラブ)	1220	17.6%
ゲイショップ	1611	23.3%
インターネットの出会い系サイト	3850	55.6%
twitterなどのSNS	4514	65.2%
スマートフォンのゲイ向けアプリ	6358	91.9%
ゲイ向けサークル	531	7.7%
ゲイ向け合コン	159	2.3%
ゲイ向け乱パ	290	4.2%
有料ハッテン場 / 野外のハッテン場	2806	40.5%
ハッテン場で有名な公共施設	1331	19.2%
売り専やマッサージ(抜きあり)	740	10.7%
HIVのコミュニティセンター	329	4.8%
いずれもない	78	1.1%
その他	25	0.4%
全体	6921	

インターネットによる出会いが約 5 割と最も多いが、ゲイバーが 48.1%、有料 / 野外のハッテン場が 40.5% と、対面でのコミュニケーションの場もあわせて利用している様子も見られた。

**16 過去 6 ヶ月間のセックスの人数**

Q. 過去 6 ヶ月間の男性のセックスの相手の人数は、何人ですか？

	n	%
0人	613	8.9%
1人	815	11.8%
2～5人	3015	43.6%
6～10人	1178	17.0%
11～20人	708	10.2%
21～50人	417	6.0%
51人以上	175	2.5%
合計	6921	100.0%

「2～5人」が最も多く 43.6% を占めたが、個人による差が大きいことが分かった。



**17 過去 6 ヶ月間の複数でのセックスの経験**

Q. 過去 6 ヶ月間に一度に 2 人以上の男性とセックスをすることはありましたか？

	n	%
はい	2126	30.7%
いいえ	3419	49.4%
そもそも 2 人以上のセックスはしない	1376	19.9%
合計	6921	100.0%

複数での性行為も 3 割が経験していた。

**18 出会いの場面での態度**

Q. 出会いの場面で、あなたは次のどちらに近いですか？

	n	%
どちらかという自分から積極的にアプローチするタイプ	1332	19.2%
どちらかという誰かに声をかけられるのを待つタイプ	2161	31.2%
相手により対応が変わる	3428	49.5%
合計	6921	100.0%

出会いの場面では、自分からアプローチする人が約 2 割、待っているタイプが約 3 割という結果であった。

**19 セックスの相手選びで重視すること**

Q. セックスの相手を決めるときに重視することを選んでください。※複数選択可

	n	%
顔の見た目	5991	86.6%
身体の体型/タイプ	6058	87.5%
ペニスのサイズ・形	1927	27.8%
セックスの相性	3116	45.0%
働き方や収入	347	5.0%
身だしなみやファッションの趣味	1895	27.4%
性格・人柄	3473	50.2%
考え方・価値観	1556	22.5%
そもそもセックスだけの相手を求めている	521	7.5%
全体	6921	

セックスの相手を決めるときに重視する項目は、「身体の体型/タイプ」、「顔の見た目」の順が多かった。

**20 パートナー選びで重視すること**

Q. パートナーを決めるときに重視することを選んでください。※複数選択可

	n	%
顔の見た目	5246	75.8%
身体の体型/タイプ	4870	70.4%
ペニスのサイズ・形	1184	17.1%
セックスの相性	3178	45.9%
働き方や収入	2709	39.1%
身だしなみやファッションの趣味	3160	45.7%
性格・人柄	6255	90.4%
考え方・価値観	5364	77.5%
そもそもパートナーを求めている	271	3.9%
全体	6921	

パートナーを決めるときに重視する項目は、「性格・人柄」、「考え方・価値観」の順が多かった。

**21 過去の最長の交際期間**

Q. これまでに一番長く男性と付き合った期間を教えてください。

※現在のパートナーを含む

	n	%
1 年未満	1521	22.0%
1 年以上～ 3 年未満	1671	24.1%
3 年以上～ 5 年未満	851	12.3%
5 年以上～ 10 年未満	936	13.5%
10 年以上～ 20 年未満	568	8.2%
20 年以上～ 30 年未満	65	0.9%
30 年以上	13	0.2%
これまでに付き合ったことはない	1296	18.7%
合計	6921	100.0%

最長の交際期間は、3 年未満が 46.1% だった。

**22 恋愛とセックスのイメージ**

Q. 現在のあなたの恋愛とセックスのイメージに最も近いものを一つお選びください。

※パートナーの有無に関わらずお答えください。

	n	%
1 対 1 のパートナー関係を重視	2736	39.5%
パートナーは必要だが、性生活は恋愛とは別に割り切って楽しみたい	2753	39.8%
パートナーは不要、性生活だけを楽しみたい	472	6.8%
相手に合わせるので、状況で変わる	960	13.9%
合計	6921	100.0%

1 対 1 のパートナーシップを重視する人と、パートナーシップは不要とする人との、恋愛のイメージは二分していた。

**性行動と予防行動（その場限り / 過去 6 ヶ月）**

**23 セックスの相手の有無**

Q. 過去 6 ヶ月間に、「その場限りの相手」はいましたか？

	n	%
いない	1900	27.5%
1人いた	945	13.7%
2人以上いた	4076	58.9%
合計	6921	100.0%

72.5%の人は、過去 6 ヶ月間に「その場限りの相手」がいた。

**24 直近の相手と知り合ったきっかけ**

Q. 一番直近の「その場限りの相手」と知り合ったきっかけは？

	n	%
ゲイバー	116	2.3%
ゲイナイト(クラブ)	18	0.4%
ゲイショップ	0	0.0%
インターネットの出会い系サイト	845	16.8%
twitterなどのSNS	222	4.4%
スマートフォンのゲイ向けアプリ	2193	43.7%
ゲイ向けサークル	2	0.0%
ゲイ向け合コン	4	0.1%
ゲイ向け乱パ	23	0.5%
有料のハッテン場/野外のハッテン場	1258	25.1%
ハッテン場で有名な公共施設	238	4.7%
売り専やマッサージ(抜きあり)	64	1.3%
日常生活(職場・学校等)のなかで	11	0.2%
友達、知人などの紹介	19	0.4%
その他	8	0.2%
小計	5021	100.0%
非該当	1900	
合計	6921	

「その場限りの相手」と出会ったきっかけは、アプリ、ハッテン場、出会い系サイトの順で多かった。

**25 過去 6 ヶ月間にした行為**

Q. 「その場限りの相手」と、過去 6 ヶ月間にした行為を選んでください。※複数選択可

	n	%
キス	4312	85.9%
さわりあい	4056	80.8%
相互オナニー(マスターベーション)	3149	62.7%
フェラチオ	4492	89.5%
アナル舐め	1423	28.3%
アナルセックス	3628	72.3%
フィストファック	69	1.4%
SM	98	2.0%
陰性交	85	1.7%
器具をつかった行為	294	5.9%
何の行為もしていない	7	0.1%
その他	21	0.4%
全体	5021	
非該当	1900	
合計	6921	

「フェラチオ」、「キス」、「さわりあい」、「アナルセックス」、「相互オナニー」の順で多かった。

**26 コンドームなしフェラチオ**

Q. 「その場限りの相手」と、過去 6 ヶ月間にコンドームを使わないフェラチオ(なめる側)はしましたか？

	n	%
していない	698	13.9%
した	4323	86.1%
小計	5021	100.0%
非該当	1900	
合計	6921	

86.1%の人が、コンドームなしのフェラチオをしていた。

**27 アナルセックスの有無**

Q. 「その場限りの相手」と、過去 6 ヶ月間にアナルセックスはしましたか？

	n	%
していない	1393	27.7%
した	3628	72.3%
小計	5021	100.0%
非該当	1900	
合計	6921	

72.3%の人が、アナルセックスをしていた。

**28** ぞの場限りの相手」とのアナルセックスとコンドーム使用頻度

Q. 自分がコンドームをつけ相手に挿入する (自分がタチ)

	n	%
なし	1522	42.0%
時々	1471	40.5%
頻繁に	635	17.5%
小計	3628	100.0%
非該当	3293	
合計	6921	

58.0%が、コンドームありで挿入していた。

Q. 相手がコンドームをつけ自分に挿入する (自分がウケ)

	n	%
なし	1305	36.0%
時々	1627	44.8%
頻繁に	696	19.2%
小計	3628	100.0%
非該当	3293	
合計	6921	

64.0%が、コンドームありで挿入されていた。

Q. 自分がコンドームをつけずに相手に挿入し、自分がイク前に抜く (自分がタチ)

	n	%
なし	2668	73.5%
時々	845	23.3%
頻繁に	115	3.2%
小計	3628	100.0%
非該当	3293	
合計	6921	

26.5%が、コンドームなしで挿入していた(射精なし)。

Q. 相手がコンドームをつけずに自分に挿入し、相手がイク前に抜く (自分がウケ)

	n	%
なし	2497	68.8%
時々	1006	27.7%
頻繁に	125	3.4%
小計	3628	100.0%
非該当	3293	
合計	6921	

31.2%が、コンドームなしで挿入されていた (射精なし)。

Q. 自分がコンドームをつけずに相手に挿入し、中でイク (自分がタチ)

	n	%
なし	2485	68.5%
時々	898	24.8%
頻繁に	245	6.8%
小計	3628	100.0%
非該当	3293	
合計	6921	

31.5%が、コンドームなしで挿入し、射精していた。

Q. 相手がコンドームをつけずに自分に挿入し、中でイク (自分がウケ)

	n	%
なし	2501	68.9%
時々	842	23.2%
頻繁に	285	7.9%
小計	3628	100.0%
非該当	3293	
合計	6921	

31.1%が、コンドームなしで挿入され、射精されていた。

**性行動と予防行動（セフレ / 過去 6 ヶ月）**

**29 セックスの相手の有無**

Q. 過去 6 ヶ月間に、「セフレ」はいましたか？

	n	%
いない	3613	52.2%
1人いた	1427	20.6%
2人以上いた	1881	27.2%
合計	6921	100.0%

47.8%の人は、過去 6 ヶ月間に「セフレ」がいた。

**30 直近の相手と知り合ったきっかけ**

Q. 一番直近の「セフレ」と知り合ったきっかけは？

	n	%
ゲイバー	72	2.2%
ゲイナイト(クラブ)	11	0.3%
ゲイショップ	0	0.0%
インターネットの出会い系サイト	716	21.6%
twitterなどのSNS	207	6.3%
スマートフォンのゲイ向けアプリ	1896	57.3%
ゲイ向けサークル	7	0.2%
ゲイ向け合コン	6	0.2%
ゲイ向け乱パ	21	0.6%
有料のハッテン場/野外のハッテン場	200	6.0%
ハッテン場で有名な公共施設	84	2.5%
売り専やマッサージ(抜きあり)	14	0.4%
日常生活(職場・学校等)のなかで	21	0.6%
友達、知人などの紹介	42	1.3%
その他	11	0.3%
小計	3308	100.0%
非該当	3613	
合計	6921	

「セフレ」と出会ったきっかけは、アプリ、出会い系サイトの順で多く、ハッテン場は少数であった。

**31 過去 6 ヶ月間にした行為**

Q. 「セフレ」と、過去 6 ヶ月間にした行為を選んでください。※複数選択可

	n	%
キス	3018	91.2%
さわりあい	2722	82.3%
相互オナニー(マスターベーション)	2125	64.2%
フェラチオ	3057	92.4%
アナル舐め	1413	42.7%
アナルセックス	2657	80.3%
フィストファック	72	2.2%
SM	104	3.1%
陰性交	51	1.5%
器具をつかった行為	317	9.6%
何の行為もしていない	9	0.3%
その他	15	0.5%
全体	3308	
非該当	3613	
合計	6921	

「フェラチオ」、「キス」、「さわりあい」、「アナルセックス」、「相互オナニー」の順で多かった。

**32 コンドームなしフェラチオ**

Q. 「セフレ」と、過去 6 ヶ月間にコンドームを使わないフェラチオ(なめる側)はしましたか？

	n	%
していない	378	11.4%
した	2930	88.6%
小計	3308	100.0%
非該当	3613	
合計	6921	

88.6%が、コンドームなしのフェラチオをしていた。

**33 アナルセックスの有無**

Q. 「セフレ」と、過去 6 ヶ月間にアナルセックスはしましたか？

	n	%
していない	651	19.7%
した	2657	80.3%
小計	3308	100.0%
非該当	3613	
合計	6921	

80.3%が、アナルセックスをしていた。

**34 「セフレ」とのアナルセックスとコンドーム使用頻度**

Q. 自分がコンドームをつけ相手に挿入する (自分がタチ)

	n	%
なし	1381	52.0%
時々	829	31.2%
頻繁に	447	16.8%
小計	2657	100.0%
非該当	4264	
合計	6921	

48.0%が、コンドームありで挿入していた。

Q. 相手がコンドームをつけ自分に挿入する (自分がウケ)

	n	%
なし	1277	48.1%
時々	942	35.5%
頻繁に	438	16.5%
小計	2657	100.0%
非該当	4264	
合計	6921	

51.9%が、コンドームありで挿入されていた。

Q. 自分がコンドームをつけずに相手に挿入し、自分がイク前に抜く (自分がタチ)

	n	%
なし	1996	75.1%
時々	539	20.3%
頻繁に	122	4.6%
小計	2657	100.0%
非該当	4264	
合計	6921	

24.9%が、コンドームなしで挿入していた (射精なし)。

Q. 相手がコンドームをつけずに自分に挿入し、相手がイク前に抜く (自分がウケ)

	n	%
なし	1863	70.1%
時々	657	24.7%
頻繁に	137	5.2%
小計	2657	100.0%
非該当	4264	
合計	6921	

29.9%が、コンドームなしで挿入されていた (射精なし)。

Q. 自分がコンドームをつけずに相手に挿入し、中でイク (自分がタチ)

	n	%
なし	1847	69.5%
時々	527	19.8%
頻繁に	283	10.7%
小計	2657	100.0%
非該当	4264	
合計	6921	

30.5%が、コンドームなしで挿入し、射精していた。

Q. 相手がコンドームをつけずに自分に挿入し、中でイク (自分がウケ)

	n	%
なし	1748	65.8%
時々	568	21.4%
頻繁に	341	12.8%
小計	2657	100.0%
非該当	4264	
合計	6921	

34.2%が、コンドームなしで挿入され、射精されていた。



**性行動と予防行動（パートナー / 過去 6 ヶ月）**

**35 パートナーの有無**

Q. 過去 6 ヶ月間に、「パートナー」はいましたか？

	n	%
いない	3786	54.7%
1人いた	2923	42.2%
2人以上いた	212	3.1%
合計	6921	100.0%

45.3%の人が、過去 6 ヶ月間に「パートナー」がいた。

**36 直近の相手と知り合ったきっかけ**

Q. 一番直近の「パートナー」と知り合ったきっかけは？

	n	%
ゲイバー	232	7.4%
ゲイナイト(クラブ)	25	0.8%
ゲイショップ	3	0.1%
インターネットの出会い系サイト	623	19.9%
twitterなどのSNS	319	10.2%
スマートフォンのゲイ向けアプリ	1290	41.1%
ゲイ向けサークル	63	2.0%
ゲイ向け合コン	22	0.7%
ゲイ向け乱パ	8	0.3%
有料のハッテン場/野外のハッテン場	178	5.7%
ハッテン場で有名な公共施設	79	2.5%
売り専やマッサージ(抜きあり)	12	0.4%
日常生活(職場・学校等)のなかで	76	2.4%
友達、知人などの紹介	161	5.1%
その他	44	1.4%
小計	3135	100.0%
非該当	3786	
合計	6921	

「パートナー」と出会ったきっかけは、アプリ、出会い系サイト、SNS、ゲイバーの順が多かった。

**37 過去 6 ヶ月間にした行為**

Q. 「パートナー」と、過去 6 ヶ月間にした行為を選んでください。※複数選択可

	n	%
キス	2673	85.3%
さわりあい	2241	71.5%
相互オナニー(マスターベーション)	1727	55.1%
フェラチオ	2186	69.7%
アナル舐め	950	30.3%
アナルセックス	1531	48.8%
フィストファック	34	1.1%
SM	48	1.5%
陰性交	35	1.1%
器具をつかった行為	226	7.2%
何の行為もしていない	358	11.4%
その他	19	0.6%
全体	3135	
非該当	3786	
合計	6921	

「キス」、「さわりあい」、「フェラチオ」、「相互オナニー」、「アナルセックス」の順が多かった。

**38 コンドームなしフェラチオ**

Q. 「パートナー」と、過去 6 ヶ月間にコンドームを使わないフェラチオ(なめる側)はしましたか？

	n	%
していない	988	31.5%
した	2147	68.5%
小計	3135	100.0%
非該当	3786	
合計	6921	

68.5%が、コンドームなしのフェラチオをしていた。

**39 アナルセックスの有無**

Q. 「パートナー」と、過去 6 ヶ月間にアナルセックスはしましたか？

	n	%
していない	1604	51.2%
した	1531	48.8%
小計	3135	100.0%
非該当	3786	
合計	6921	

48.8%が、アナルセックスをしていた。

**40** パートナー]とのアナルセックスとコンドーム使用頻度

Q. 自分がコンドームをつけ相手に挿入する(自分がタチ)

	n	%
なし	1038	67.8%
時々	324	21.2%
頻繁に	169	11.0%
小計	1531	100.0%
非該当	5390	
合計	6921	

32.2%が、コンドームありで挿入していた。

Q. 相手がコンドームをつけ自分に挿入する(自分がウケ)

	n	%
なし	975	63.7%
時々	365	23.8%
頻繁に	191	12.5%
小計	1531	100.0%
非該当	5390	
合計	6921	

36.3%が、コンドームありで挿入されていた。

Q. 自分がコンドームをつけずに相手に挿入し、自分がイク前に抜く(自分がタチ)

	n	%
なし	1187	77.5%
時々	246	16.1%
頻繁に	98	6.4%
小計	1531	100.0%
非該当	5390	
合計	6921	

22.5%が、コンドームなしで挿入していた(射精なし)。

Q. 相手がコンドームをつけずに自分に挿入し、相手がイク前に抜く(自分がウケ)

	n	%
なし	1105	72.2%
時々	292	19.1%
頻繁に	134	8.8%
小計	1531	100.0%
非該当	5390	
合計	6921	

27.8%が、コンドームなしで挿入されていた(射精なし)。

Q. 自分がコンドームをつけずに相手に挿入し、中でイク(自分がタチ)

	n	%
なし	1031	67.3%
時々	250	16.3%
頻繁に	250	16.3%
小計	1531	100.0%
非該当	5390	
合計	6921	

32.7%が、コンドームなしで挿入し、射精していた。

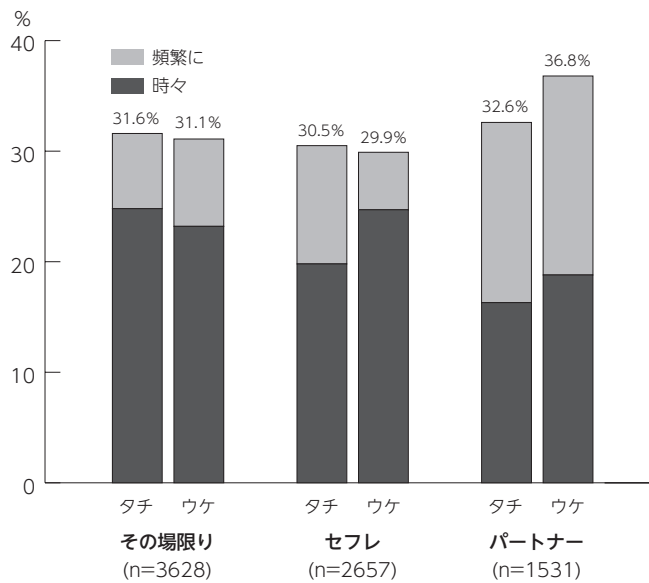
Q. 相手がコンドームをつけずに自分に挿入し、中でイク(自分がウケ)

	n	%
なし	968	63.2%
時々	275	18.0%
頻繁に	288	18.8%
小計	1531	100.0%
非該当	5390	
合計	6921	

36.8%が、コンドームなしで挿入され、射精されていた。

過去 6 ヶ月間のアナルセックスでの中だし経験

	その場限り (n=3628)		セフレ (n=2657)		パートナー (n=1531)	
	タチ	ウケ	タチ	ウケ	タチ	ウケ
頻繁に	6.8%	7.9%	10.7%	5.2%	16.3%	18.0%
時々	24.8%	23.2%	19.8%	24.7%	16.3%	18.8%



セックスの相手との関係別でまとめてみると、「その場限り」、「セフレ」では、約3割前後がタチ/ウケともにコンドームなし・射精ありのセックスをしていた。「パートナー」は数は少ないものの、ウケはコンドームなしで射精される割合が高かった。

## HIV 検査に関する会話 / セロソート

### 41 セックスの相手から検査結果を質問された経験

Q. これまでに性関係にあった相手に自分の HIV 検査結果を質問された経験がありますか？

	その場限りの相手		セフレ		パートナー	
	n	%	n	%	n	%
ない	4827	69.7%	4188	60.5%	3905	56.4%
ある	1596	23.1%	1634	23.6%	2049	29.6%
これまでにこの相手はいない	498	7.2%	1099	15.9%	967	14.0%
合計	6921	100.0%	6921	100.0%	6921	100.0%

過去に検査結果を質問された経験は、その場限りの相手/セフレで2割強、パートナーで3割だった。

### 42 セックスの相手に検査結果を伝えた経験

Q. これまでに性関係にあった相手に自分の HIV 検査結果を相手に伝えた経験がありますか？

	その場限りの相手		セフレ		パートナー	
	n	%	n	%	n	%
ない	4581	66.2%	3863	55.8%	3292	47.6%
ある	1868	27.0%	2000	28.9%	2692	38.9%
これまでにこの相手はいない	472	6.8%	1058	15.3%	937	13.5%
合計	6921	100.0%	6921	100.0%	6921	100.0%

過去に検査結果を伝えた経験は、その場限りの相手/セフレで3割弱、パートナーで4割弱だった。

### 43 セックスの相手から HIV 検査結果を伝えられた経験

Q. これまでに性関係にあった相手から HIV 検査結果を伝えられた経験がありますか？

	その場限りの相手		セフレ		パートナー	
	n	%	n	%	n	%
ない	4471	64.6%	3903	56.4%	3678	53.1%
ある	1995	28.8%	2002	28.9%	2335	33.7%
これまでにこの相手はいない	455	6.6%	1016	14.7%	908	13.1%
合計	6921	100.0%	6921	100.0%	6921	100.0%

過去に検査結果を伝えられた経験は、その場限りの相手/セフレで3割弱、パートナーで3割強だった。

### 44 過去 6 ヶ月間にコンドームなしのアナルセックスをした経験

Q. これまで性関係にあった相手と、過去 6 ヶ月間にコンドームを使わないアナルセックスをしたことはありますか？

	n	%
いいえ	3557	51.4%
はい	3364	48.6%
合計	6921	100.0%

回答者の約半数が、過去 6 ヶ月間にコンドームなしのアナルセックスをしていた。

**45 過去 6 ヶ月間のセロソーティング等（陰性同士、陽性同士、治療の効果を確認など）**

過去 6 ヶ月間でコンドームを使用せずにアナルセックスをした際、以下のことをどの程度しましたか？

※海外では、以下のような行動が HIV 感染予防に効果があると言われています。

Q. 自分と相手の HIV 検査の結果が同じであることを確認（陽性同士、陰性同士）

	n	%
していない	1863	55.4%
ときどきしている	687	20.4%
頻繁にしている	218	6.5%
常にしている	395	11.7%
該当しない	201	6.0%
小計	3364	100.0%
非該当	3557	
合計	6921	

HIV 検査結果が同じかどうかを確認する行動は、「常にしている」と「頻繁にしている」が合わせて 18.2%、「ときどきしている」が 20.4%だった。

Q. もし、相手が HIV 陽性である場合には、相手の治療の効果を確認

	n	%
していない	1645	48.9%
ときどきしている	125	3.7%
頻繁にしている	58	1.7%
常にしている	145	4.3%
該当しない	1391	41.3%
小計	3364	100.0%
非該当	3557	
合計	6921	

Q. もし、自分が HIV 陽性である場合には、自分の治療の効果を把握

	n	%
していない	1367	40.6%
ときどきしている	95	2.8%
頻繁にしている	65	1.9%
常にしている	260	7.7%
該当しない	1577	46.9%
小計	3364	100.0%
非該当	3557	
合計	6921	

**HIV 検査行動**

**46 過去の受検行動の有無**

Q. これまでに HIV 抗体検査を受けたことがありますか？

	n	%
いいえ	2609	37.7%
はい	4312	62.3%
合計	6921	100.0%

\* Q46 で「いいえ」と回答し、Q49 の自由記述で「陽性」と回答している 8 名は、Q46 を「はい」、Q48 を「陽性」、Q49～Q58 を「非該当」に変換。6 割強が、検査を受けたことがあると回答。

**47 最後に受けた検査の時期**

Q. 最後に受けた検査はいつですか？

	n	%
この 6 ヶ月未満前	1483	34.5%
6 ヶ月以上～1 年未満前	858	19.9%
1 年以上～3 年未満前	1037	24.1%
3 年以上前	926	21.5%
小計	4304	100.0%
非該当	2617	
合計	6921	

最後に受けた検査は、「1 年以上～3 年未満前」が 24.1%、「3 年前以上前」が 21.5%だった。

**48 検査結果**

Q. 結果はどうでしたか？

	n	%
陰性（感染していなかった）	3767	87.4%
陽性（感染していた）	513	11.9%
結果を受け取っていない	32	0.7%
小計	4312	100.0%
非該当	2609	
合計	6921	

結果は「陰性」が 87.4%、「陽性」が 11.9%だった。「結果を受け取っていない」という人もいた。



**49 受けない理由**

Q. 受けたことがない理由は次のどれがあてはまりますか? ※複数選択可

	n	%
結果を知るのが怖いから	808	31.0%
感染している可能性がない	744	28.5%
曖昧なままにしておきたい	265	10.2%
検査場所が分からない	703	26.9%
機会がなかった	1652	63.3%
お金がかかる	416	15.9%
HIV感染者だと周囲に疑われる	236	9.0%
セクシュアリティの説明が面倒	416	15.9%
その他	113	4.3%
全体	2609	
非該当	4312	
合計	6921	

検査を受けない理由は「機会がなかった」が最も多く、「結果を知るのが怖いから」、「感染している可能性がない」、「検査場所が分からない」、「セクシュアリティの説明が面倒」、「お金がかかる」と続いた。

**性行動と予防行動（その他）**

※これらは米国 CDC（疾病管理予防センター）が開発した HIV の感染リスクを測る簡易スクリーニング・テスト（HIRI-MSM）の一部で、自分が HIV 陽性だと知っている人たち以外に質問している。

**50 過去 6 ヶ月間の受け手側（ウケ）のアナルセックスの回数**

Q. 過去 6 ヶ月間に、何回、受け手側（ウケ）のアナルセックスをしましたか？

	n	%
0回	3092	48.3%
1回以上	3316	51.7%
小計	6408	100.0%
非該当	513	
合計	6921	

過去 6 ヶ月間にアナルセックスでウケをしていたのは、陽性者以外では 48.3% だった。

**51 これまでの HIV 陽性の男性のセックスの相手の人数**

Q. これまでに、HIV 陽性の男性のセックスの相手が何人いましたか？

	n	%
0人	5715	89.2%
1人	476	7.4%
2人以上	217	3.4%
小計	6408	100.0%
非該当	513	
合計	6921	

10.8%が、陽性者の男性とのセックス経験があると回答。

**52 過去 6 ヶ月間の HIV 陽性の男性との挿入側 (タチ) アナルセックスの回数**

Q. 過去 6 ヶ月間に、HIV 陽性の男性と、挿入側 (タチ) アナルセックスを何回しましたか?

	n	%
0回	6126	95.6%
1回	101	1.6%
2回	44	0.7%
3回	30	0.5%
4回	9	0.1%
5回以上	98	1.5%
小計	6408	100.0%
非該当	513	
合計	6921	

4.4%が、陽性者とのアナルセックスで挿入した経験があると回答。

**HIRI-MSM のスコア分布**

	n	%
0～5点	1469	21.2%
6～10点	1248	18.0%
11～15点	1222	17.7%
16～20点	1344	19.4%
21～25点	914	13.2%
26～30点	158	2.3%
31～35点	37	0.5%
36～40点	15	0.2%
41～45点	1	0.0%
NA	513	7.4%
合計	6921	100%

10点以上の場合にはPrEPやより強化されたHIV予防へのアクセスが必要だとされ、9点以下の場合には標準的な予防サービスを提供するように推奨されている。

**意識**

※自分が HIV 陽性だと知っている人以外が回答している。

**53 PrEP の認知**

Q. PrEP (HIV 暴露前予防) とは何かを知っていましたか?

	n	%
はい	677	10.6%
いいえ	5731	89.4%
小計	6408	100.0%
非該当	513	
合計	6921	

海外では、治療のために使われる抗 HIV 薬を予防のために利用する取り組みが始まっている。そのことを知っている人は 10.6%であった。

**54 PrEP の服薬希望**

Q. HIV 感染の予防のために、抗 HIV 薬 (PrEP) があつたら飲みたいですか?

	n	%
はい	4367	68.1%
いいえ	327	5.1%
分からない	1705	26.6%
過去に飲んだことがある	5	0.1%
現在 PrEP を飲んでいる最中である	4	0.1%
小計	6408	100.00%
非該当	513	
合計	6921	

PrEP を飲みたい人という人は 68.1%、分からないという人は 26.6%。現在 / 過去に服薬中の人は 9 人であった。

**55 PrEP の服用で気になること**

Q. PrEP (HIV 暴露前予防) を飲むとしたら、気になることは次のうちどれですか? ※複数選択可

	n	%
どれくらいお金が必要か	5992	93.5%
どのくらい副作用があるのか	5824	90.9%
予防の効果がどれくらいか	5226	81.6%
安定して継続できるのか	3704	57.8%
近所の医療機関で入手できるか	4366	68.1%
薬剤耐性 (実際に HIV になった時、使える薬の種類が限られてしまわないか)	3001	46.8%
その他	106	1.7%
全体	6408	100.0%
非該当	513	
合計	6921	

気になる点は、価格、副作用、効果などがあげられた。

### 56 PrEP のコンドーム使用への影響

Q. HIV 感染の予防のために、PrEP (HIV 暴露前予防) を服薬した場合、コンドーム使用にどう影響すると思いますか？

	n	%
コンドームを今より使うようになると思う	802	12.5%
コンドームを今より使わなくなると思う	1929	30.1%
変わらないと思う	2944	45.9%
分からない	733	11.4%
小計	6408	100.00%
非該当	513	
合計	6921	

コンドーム使用への影響は、コンドームをより使うが12.5%、より使わなくなると30.1%だった。

### 57 PEP の認知

Q. PEP (HIV 暴露後予防) とは何かを知っていましたか？

	n	%
はい	533	8.3%
いいえ	5875	91.7%
小計	6408	100.0%
非該当	513	
合計	6921	

予防が失敗した場合に抗HIVを服薬することを、PEPという。海外ではそういった取り組みが始まっているが、知っている人は8.3%であった。

### 58 PEP の服薬希望

Q. PEP (HIV 暴露後予防) があつたら飲みたいですか？

	n	%
はい	4103	64.0%
いいえ	258	4.0%
わからない	2040	31.8%
過去に飲んだことがある	3	0.0%
現在 PEP を飲んでいる最中である	4	0.1%
小計	6408	100.0%
非該当	513	
合計	6921	

PEPがあつたら飲みたいという人は、64.0%であった。

## HIV の意識

### 59 HIV の身近感

Q. あなたにとって HIV は身近なものですか？

	n	%
とても身近	1309	18.9%
身近	2530	36.6%
身近ではない	2405	34.7%
全く身近ではない	677	9.8%
合計	6921	100.0%

HIVが身近だと感じる人は55.5%、身近ではないという人は45.6%だった。

### 60 HIV 陽性者の友達や知人の有無

Q. 友達や知り合いに HIV に感染している人はいますか？

	n	%
いる	1901	27.5%
いると思う	1094	15.8%
いないと思う	2887	41.7%
いない	1039	15.0%
合計	6921	100.00%

HIV陽性の知人が「いる」、「いると思う」が合わせて43.3%、「いないと思う」、「いない」が合わせて56.7%だった。

**61 HIVの流行の中心が男性同性間のセックスである認識**

Q. 日本の HIV 感染報告はゲイ・バイセクシュアル男性が中心であると思いますか？

	n	%
そう思う	4158	60.1%
そう思わない	1921	27.8%
わからない	842	12.2%
合計	6921	100.0%

「そう思う」が6割であった。実際には、2016年の厚生労働省の報告によると、HIV陽性者のうち未発症者「HIV感染者」の72.7%、発症者「AIDS患者」の55.1%が男性同性間の性行為による感染である。

**62 HIV 陽性であるかないかの話しやすさ**

Q. 普段の生活のなかで、HIV 陽性であるかないかを話しやすいと思いますか？

	n	%
とても話しやすいと思う	65	0.9%
話しやすいと思う	262	3.8%
話しやすいと思わない	2635	38.1%
全く話しやすいと思わない	3959	57.2%
合計	6921	100.0%

HIV 陽性であるかないかを話しやすいかを聞くと、「とても話しやすいと思う」と「話しやすいと思う」で4.7%、「話しやすいと思わない」と「全く話しやすいと思わない」で95.3%を占めた。

**基本知識 10 問**

**63 治療とウイルス量の変化、性感染症と HIV 感染の関連、早期治療の重要性、医療費助成制度の存在、検出限界以下だと感染は起こりにくい、知らずにいると誰かにウイルスを渡す、オーラルセックスのリスク、男性同性間のセックスが主要感染経路、コンドームが感染症に有効、プライバシーは守られる**

Q. 以下の質問で正しいものには○、間違っているものには×を選んでください。

※アンケート終了後に解説ページに案内した(巻末を参照)。

HIV 感染に気づいている人は、治療を継続することで血液中からウイルスがほとんど見つからなくなる

	n	%
○	2623	37.9%
×	4298	62.1%
合計	6921	100.0%

抗HIV薬による治療で、血液中のウイルスが見つからないレベルに抑えることが可能になった。「○」が正解だが、HIV＝ウイルスであると認識しなかった人がいた可能性もある。

性感染症 (HIV 以外) にかかっていると、HIV に感染しやすくなる

	n	%
○	5295	76.5%
×	1626	23.5%
合計	6921	100.0%

「○」が正解。23.5%の人は不正解だった。

HIV に感染しても、早期に治療を開始すれば、長く生きられる

	n	%
○	6668	96.3%
×	253	3.7%
合計	6921	100.0%

「○」が正解。ほとんどの人が正解した。

HIV の治療費を低く抑えることができる社会制度がある

	n	%
○	5496	79.4%
×	1425	20.6%
合計	6921	100.0%

「○」が正解。20.6%の人は不正解だった。

通院し治療を受けても、HIV のプライバシーは守られ、役所、病院などから職場や学校に勝手に伝わらない

	n	%
○	6220	89.9%
×	701	10.1%
合計	6921	100.0%

「○」が正解。基本的にプライバシーは守られるが、不安に感じていることが回答に影響した可能性もある。

セックスの相手が HIV に感染している場合でも、感染に気づき治療を継続している場合には、感染の可能性は非常に低くなる

	n	%
○	2977	43.0%
×	3944	57.0%
合計	6921	100.0%

「○」が正解。57.0%の人は不正解だった。

HIV 感染に気づかずにいると、セックスを通じて体内のウイルスを誰かにうつすことがある

	n	%
○	6840	98.8%
×	81	1.2%
合計	6921	100.0%

「○」が正解。ほとんどの人が正解した。

先進国では HIV の主な感染ルートは男性同性間のセックスによるものである

	n	%
○	4867	70.3%
×	2054	29.7%
合計	6921	100.0%

「○」が正解。29.7%の人は不正解だった。

オーラルセックスでの HIV の感染のリスクは低いが、ゼロではない

	n	%
○	6513	94.1%
×	408	5.9%
合計	6921	100.0%

「○」が正解。ほとんどの人が正解した。

コンドームを使用することで、HIV だけでなく、他の性感染症のリスクも減らせる

	n	%
○	6828	98.7%
×	93	1.3%
合計	6921	100.0%

「○」が正解。ほとんどの人が正解した。

## 嗜好品

### 64 過去 6 ヶ月間の喫煙

Q. 過去 6 ヶ月間に、たばこを吸いましたか？

	n	%
ほぼ毎日吸っていた	2049	29.6%
ときどき吸っていた	433	6.3%
全く吸っていない	4439	64.1%
合計	6921	100.0%

喫煙率は 35.9%であった。

### 65 過去 6 ヶ月間の飲酒

Q. 過去 6 ヶ月間に、お酒を飲みましたか？

	n	%
ほぼ毎日飲んでいました	1089	15.7%
ときどき飲んでいました	4807	69.5%
全く飲んでいない	1025	14.8%
合計	6921	100.0%

全く飲酒しない人が 14.8%いた。

## 薬物使用についての意識 / 行動

### 66 ドラッグ・薬物使用の話題の話しやすさ

Q. 普段の生活のなかで、ドラッグ・薬物の話題は話しやすいと思いますか？

	n	%
とても話しやすいと思う	177	2.6%
話しやすいと思う	1153	16.7%
話しやすいと思わない	3174	45.9%
全く話しやすいと思わない	2417	34.9%
合計	6921	100.0%

ドラッグ・薬物の話題は、19.2%の人が話しやすいと回答。

### 67 ドラッグ・薬物使用のイメージ

Q. ドラッグ・薬物を使用することのイメージをお聞かせください。※複数選択可

	n	%
オシャレ／カッコいい	65	0.9%
楽しい／気持ちいい	957	13.8%
危険／怖い	5824	84.1%
違法	5837	84.3%
はまると怖い	5010	72.4%
ダサい	1753	25.3%
コントロールできていれば大丈夫	413	6.0%
全体	6921	

ドラッグのイメージは多様だが、「危険／怖い」、「違法」、「はまると怖い」という回答が多くの割合を占めた。



**68 ドラッグ・薬物使用の目撃経験**

Q. これまでに、誰かがドラッグ・薬物を使用しているのを見たことがありますか？

	n	%
はい	2865	41.4%
いいえ	4056	58.6%
合計	6921	100.0%

ドラッグ・薬物の目撃経験は、41.4%の人があると回答していた。

**69 ドラッグ・薬物使用の被誘惑経験**

Q. これまでに、ドラッグ・薬物使用を勧められたことがありますか？

	n	%
はい	2498	36.1%
いいえ	4423	63.9%
合計	6921	100.0%

過去にドラッグ・薬物使用を勧められた経験がある人が36.1%いた。

**70 ドラッグ・薬物の使用経験**

Q. これまでにドラッグ・薬物を使った経験はありますか？

	n	%
はい	1756	25.4%
いいえ	5165	74.6%
合計	6921	100.0%

25.4%が、使用した経験があると回答した。

**71 ドラッグ・薬物の最終使用時期**

Q. 次のドラッグ・薬物を、セックスの場面に限らず最後に使ったのはいつですか？

A. ぼっき薬・ED薬（バイアグラ、シアリス・威哥王・三便宝など）

	n	%
1 ヶ月以内	359	20.4%
2 ヶ月～6 ヶ月以内	167	9.5%
7 ヶ月～1 年以内	98	5.6%
1 年以上前	398	22.7%
使ったことはない	734	41.8%
小計	1756	100.0%
非該当	5165	
合計	6921	

**B. 咳止め（ブロン）**

	n	%
1 ヶ月以内	60	3.4%
2 ヶ月～6 ヶ月以内	64	3.6%
7 ヶ月～1 年以内	77	4.4%
1 年以上前	171	9.7%
使ったことはない	1384	78.8%
小計	1756	100.0%
非該当	5165	
合計	6921	

**C. 脱法ドラッグ（ハーブ・リキッド・パウダー・アロマ・ソルト）**

	n	%
1 ヶ月以内	36	2.1%
2 ヶ月～6 ヶ月以内	38	2.2%
7 ヶ月～1 年以内	42	2.4%
1 年以上前	506	28.8%
使ったことはない	1134	64.6%
小計	1756	100.0%
非該当	5165	
合計	6921	

**D. 5MeO – DIPT（ゴメオ・フォクシー）**

	n	%
1 ヶ月以内	4	0.2%
2 ヶ月～6 ヶ月以内	3	0.2%
7 ヶ月～1 年以内	7	0.4%
1 年以上前	586	33.4%
使ったことはない	1156	65.8%
小計	1756	100.0%
非該当	5165	
合計	6921	

**E. ラッシュ（亜硝酸アミル系・ポッパー・RUSH）**

	n	%
1 ヶ月以内	133	7.6%
2 ヶ月～6 ヶ月以内	151	8.6%
7 ヶ月～1 年以内	71	4.0%
1 年以上前	1232	70.2%
使ったことはない	169	9.6%
小計	1756	100.0%
非該当	5165	
合計	6921	

5MeO – DIPTは2005年、ラッシュは2016年までに規制が段階的に強化された。以前はショップで販売していたが、現在は国内では入手が難しい。

**F. ガス (エアダスター、ライターガス)**

	n	%
1 ヶ月以内	32	1.8%
2 ヶ月～6 ヶ月以内	37	2.1%
7 ヶ月～1 年以内	23	1.3%
1 年以上前	208	11.8%
使ったことはない	1456	82.9%
小計	1756	100.0%
非該当	5165	
合計	6921	

**G. 有機溶剤・シンナー (ボンド・トルエン・エーテル)**

	n	%
1 ヶ月以内	9	0.5%
2 ヶ月～6 ヶ月以内	3	0.2%
7 ヶ月～1 年以内	1	0.1%
1 年以上前	74	4.2%
使ったことはない	1669	95.0%
小計	1756	100.0%
非該当	5165	
合計	6921	

**H. 大麻 (マリファナ・ハシッシ・ハツパ)**

	n	%
1 ヶ月以内	17	1.0%
2 ヶ月～6 ヶ月以内	24	1.4%
7 ヶ月～1 年以内	17	1.0%
1 年以上前	320	18.2%
使ったことはない	1378	78.5%
小計	1756	100.0%
非該当	5165	
合計	6921	

**I. 覚せい剤 (シャブ・エス・スピード・アイス・クリスタルメス)**

	n	%
1 ヶ月以内	31	1.8%
2 ヶ月～6 ヶ月以内	25	1.4%
7 ヶ月～1 年以内	12	0.7%
1 年以上前	174	9.9%
使ったことはない	1514	86.2%
小計	1756	100.0%
非該当	5165	
合計	6921	

**J. MDMA (エクスタシー・X・バツ・アダム)**

	n	%
1 ヶ月以内	8	0.5%
2 ヶ月～6 ヶ月以内	9	0.5%
7 ヶ月～1 年以内	5	0.3%
1 年以上前	132	7.5%
使ったことはない	1602	91.2%
小計	1756	100.0%
非該当	5165	
合計	6921	

**K. ヘロイン (モルヒネ、けし)**

	n	%
1 ヶ月以内	1	0.1%
2 ヶ月～6 ヶ月以内	2	0.1%
7 ヶ月～1 年以内	2	0.1%
1 年以上前	24	1.4%
使ったことはない	1727	98.3%
小計	1756	100.0%
非該当	5165	
合計	6921	

**L. コカイン (クラック・コーク・ロック)**

	n	%
1 ヶ月以内	2	0.1%
2 ヶ月～6 ヶ月以内	1	0.1%
7 ヶ月～1 年以内	1	0.1%
1 年以上前	52	3.0%
使ったことはない	1700	96.8%
小計	1756	100.0%
非該当	5165	
合計	6921	

**M. ケタミン**

	n	%
1 ヶ月以内	7	0.4%
2 ヶ月～6 ヶ月以内	7	0.4%
7 ヶ月～1 年以内	3	0.2%
1 年以上前	32	1.8%
使ったことはない	1707	97.2%
小計	1756	100.0%
非該当	5165	
合計	6921	

**N. GHB (G、G ウォーター)**

	n	%
1 ヶ月以内	4	0.2%
2 ヶ月～6 ヶ月以内	3	0.2%
7 ヶ月～1 年以内	3	0.2%
1 年以上前	24	1.4%
使ったことはない	1722	98.1%
小計	1756	100.0%
非該当	5165	
合計	6921	

**O. 注射器・注射針を使ったドラッグ・薬物**

	n	%
1 ヶ月以内	27	1.5%
2 ヶ月～6 ヶ月以内	25	1.4%
7 ヶ月～1 年以内	9	0.5%
1 年以上前	101	5.8%
使ったことはない	1594	90.8%
小計	1756	100.0%
非該当	5165	
合計	6921	

注射によるドラッグ・薬物使用は91%が経験がないと回答。

**72 初めてのドラッグ・薬物使用の場所**

**Q. 初めてドラッグ・薬物を使用した場所はどこでしたか？**

	n	%
クラブ	49	2.8%
ハッテン場	326	18.6%
ホテル	284	16.2%
自分の家	242	13.8%
パートナーの家	116	6.6%
セフレの家	369	21.0%
友達・先輩・後輩の家	137	7.8%
野外	70	4.0%
覚えていない	121	6.9%
その他（具体的に）	42	2.4%
小計	1756	100.0%
非該当	5165	
合計	6921	

初めてドラッグ・薬物を使った場所は、その多くが性行為の場所と重なると思われる。

**73 初めてのドラッグ・薬物使用の相手**

**Q. 初めてドラッグ・薬物を使用したとき誰かと一緒にしたか？ ※複数選択可**

	n	%
その場限りのセックスの相手	778	44.3%
セフレ	543	30.9%
パートナー	234	13.3%
友達・先輩・後輩	262	14.9%
乱パにいた知らない人	50	2.8%
自分1人	149	8.5%
覚えていない	56	3.2%
その他（具体的に）	13	0.7%
全体	1756	
非該当	5165	
合計	6921	

誰と一緒にだったのかを聞くと、多くはセックスの相手だった。「友達・先輩・後輩」だったという人も、14.9%いた。

**74 ドラッグ・薬物の使用開始年齢**

**Q. 初めてドラッグ・薬物を使ったのは何歳のときでしたか？**

	n	%
10歳未満	4	0.2%
10～15歳	50	2.8%
16～19歳	313	17.8%
20～24歳	659	37.5%
25～29歳	400	22.8%
30～34歳	192	10.9%
35～39歳	91	5.2%
40～44歳	33	1.9%
45～49歳	10	0.6%
50～54歳	4	0.2%
55～59歳	0	0.0%
60～64歳	0	0.0%
65～69歳	0	0.0%
70歳以上	0	0.0%
小計	1756	100.0%
非該当	5165	
合計	6921	

ドラッグ・薬物の使用開始年齢は、10代：20.7%、20代：60.3%、30代：16.1と、多くが10～20代で使用を開始していた。

**75 ドラッグ・薬物使用の状況**

Q. 初めてドラッグ・薬物を使用したときの状況は次のうちどれに近いですか？

	n	%
自ら望んで	349	19.9%
相手に誘われて	1262	71.9%
自分の同意がないまま摂取していた (自分の知らないうちに相手に摂取 させられた)	145	8.3%
小計	1756	100.0%
非該当	5165	
合計	6921	

初めてドラッグ・薬物を使った時は、「相手に誘われて」が7割以上であった。

**76 ドラッグや薬物を使う理由**

Q. ドラッグ・薬物を使う理由について、あてはまるものを選んでください。一度も使ったことがない人は、想像で答えてください。

セックスの快感を高めたり、アナルセックスの痛みを軽減させるため

	n	%
そう思う	3620	52.3%
ややそう思う	1887	27.3%
あまりそう思わない	393	5.7%
そう思わない	1021	14.8%
合計	6921	100.0%

セックスへの不安解消や性的関係を維持するため

	n	%
そう思う	1160	16.8%
ややそう思う	1480	21.4%
あまりそう思わない	1774	25.6%
そう思わない	2507	36.2%
合計	6921	100.0%

現実からの逃避、精神的不安を軽減するため

	n	%
そう思う	3118	45.1%
ややそう思う	1705	24.6%
あまりそう思わない	615	8.9%
そう思わない	1483	21.4%
合計	6921	100.0%

クラブで音楽や映像への感度を高めるため

	n	%
そう思う	1279	18.5%
ややそう思う	1675	24.2%
あまりそう思わない	1572	22.7%
そう思わない	2395	34.6%
合計	6921	100.0%

薬物をすすめる相手と親密になるため

	n	%
そう思う	681	9.8%
ややそう思う	1414	20.4%
あまりそう思わない	1764	25.5%
そう思わない	3062	44.2%
合計	6921	100.0%

法的に制限されていない海外だから

	n	%
そう思う	1259	18.2%
ややそう思う	1715	24.8%
あまりそう思わない	1319	19.1%
そう思わない	2628	38.0%
合計	6921	100.0%

ドラッグ・薬物を使う理由で多いものは、アナルセックスの痛みの緩和と軽減で、次いで現実からの逃避、精神的な不安を軽減するためだった。

**77 ドラッグや薬物を使わない理由**

Q. ドラッグや薬物を使わない理由について、あてはまるものを選んでください。

違法だから

	n	%
そう思う	6286	90.8%
ややそう思う	425	6.1%
あまりそう思わない	97	1.4%
そう思わない	113	1.6%
合計	6921	100.0%

危険だから

	n	%
そう思う	6203	89.6%
ややそう思う	540	7.8%
あまりそう思わない	107	1.5%
そう思わない	71	1.0%
合計	6921	100.0%

## はまると怖いから

	n	%
そう思う	6033	87.2%
ややそう思う	605	8.7%
あまりそう思わない	140	2.0%
そう思わない	143	2.1%
合計	6921	100.0%

## 使うべきでないと思うから

	n	%
そう思う	5857	84.6%
ややそう思う	653	9.4%
あまりそう思わない	247	3.6%
そう思わない	164	2.4%
合計	6921	100.0%

## 依存になった身近な人がいるから

	n	%
そう思う	1187	17.2%
ややそう思う	722	10.4%
あまりそう思わない	1282	18.5%
そう思わない	3730	53.9%
合計	6921	100.0%

## 正しい情報や教育を得ているから

	n	%
そう思う	3664	52.9%
ややそう思う	1828	26.4%
あまりそう思わない	923	13.3%
そう思わない	506	7.3%
合計	6921	100.0%

## 現状の生活に満足しているから

	n	%
そう思う	3363	48.6%
ややそう思う	1339	19.3%
あまりそう思わない	1211	17.5%
そう思わない	1008	14.6%
合計	6921	100.0%

## 周囲の信用を失うから

	n	%
そう思う	5106	73.8%
ややそう思う	1079	15.6%
あまりそう思わない	412	6.0%
そう思わない	324	4.7%
合計	6921	100.0%

## 薬物を使わないセックスに満足しているから

	n	%
そう思う	3979	57.5%
ややそう思う	1438	20.8%
あまりそう思わない	849	12.3%
そう思わない	655	9.5%
合計	6921	100.0%

## 近親者に迷惑をかけるから

	n	%
そう思う	5502	79.5%
ややそう思う	795	11.5%
あまりそう思わない	329	4.8%
そう思わない	295	4.3%
合計	6921	100.0%

## ストレスと対処行動

※ Q78～80 は国民生活基礎調査（健康票）と同じ質問を採用している。

### 78 悩みやストレスの有無

Q. あなたは現在、日常生活で悩みやストレスがありますか。

	n	%
ある	6286	90.8%
ない	635	9.2%
合計	6921	100.0%

9割以上がストレスがあると回答していた。

### 79 悩みやストレスの内容

Q. それは、どのような原因による悩みやストレスですか。  
※複数選択可

	n	%
家族との人間関係	2298	36.6%
家族以外との人間関係	3298	52.5%
恋愛・性に関すること	3869	61.5%
結婚	1609	25.6%
離婚	88	1.4%
いじめ、セクシュアル・ハラスメント	493	7.8%
生きがいにに関すること	2773	44.1%
自由にできる時間がない	1177	18.7%
収入・家計・借金等	3884	61.8%
自分の病気や介護	1354	21.5%
家族の病気や介護	850	13.5%
妊娠・出産	57	0.9%
育児	49	0.8%
家事	280	4.5%
自分の学業・受験・進学	685	10.9%
子どもの教育	76	1.2%
自分の仕事	4387	69.8%
家族の仕事	273	4.3%
住まいや生活環境 (公害、安全及び交通事情を含む)	1033	16.4%
分からない	57	0.9%
その他	264	4.2%
全体	6286	
非該当	635	
合計	6921	

ストレス源は、仕事関係、恋愛や性、経済的なこと、人間関係などが多かった。



## 80 相談行動

Q. 悩みやストレスを、どのように相談していますか。※複数選択可

	n	%
家族に相談している	1154	18.4%
友人・知人に相談している	3587	57.1%
職場の上司、学校の先生に相談している	592	9.4%
公的な機関(保健所、福祉事務所、精神保健福祉センター等)の相談窓口(電話等での相談を含む)を利用している	122	1.9%
民間の相談機関(悩み相談所等)の相談窓口(電話等での相談を含む)を利用している	69	1.1%
病院・診療所の医師に相談している	413	6.6%
テレビ、ラジオ、新聞等の相談コーナーを利用している	19	0.3%
上記以外で相談している(職場の相談窓口等)	46	0.7%
相談したいが誰にも相談できないでいる	1459	23.2%
相談したいがどこに相談したらよいか分からない	888	14.1%
相談する必要がないので誰にも相談していない	1146	18.2%
その他(具体的に)	115	1.8%
全体	6286	
非該当	635	
合計	6921	

ストレスについて周囲の人に相談するという人が多かったが、相談先が分からないという人も2割いた。

## 81 ストレスへの対処行動

Q. ストレスがたまったときに、どんな方法でそれを解消しますか? ※複数選択可

	n	%
お酒を飲む	2979	43.0%
タバコを吸う	1770	25.6%
マスターベーションをする	4197	60.6%
ハッテン場においてセックスをする	1779	25.7%
売り専を利用する	231	3.3%
マッサージに行く(抜きあり)	519	7.5%
美味しいものを食べる	4464	64.5%
誰でもいいので人と会っておしゃべりをする	2225	32.1%
信頼できる人と話す	3436	49.6%
薬物(ドラッグ)を使う	83	1.2%
映画を見る	1995	28.8%
音楽を聴く	3427	49.5%
ショッピングをする	2719	39.3%
スポーツをする	1835	26.5%
趣味に打ち込む	2676	38.7%
仕事に打ち込む	660	9.5%
テレビを見る	1957	28.3%
ゲームをする	1673	24.2%
カラオケに行く	2061	29.8%
散歩をする	1384	20.0%
旅行に行く	1720	24.9%
パチンコ・ギャンブルをする	687	9.9%
そもそもストレスがたまらない	134	1.9%
その他	273	3.9%
全体	6921	

(本調査独自の設問)「美味しいものを食べる」、「マスターベーションをする」、「音楽を聴く」、「お酒を飲む」がストレス解消方法として多く選ばれていた。

## 人間関係やネットワーク

### 82 当事者の友人と知り合った方法

Q. あなたの親しいゲイ・バイセクシュアル、またはトランス・ゲイ男性の友人たちとはどこで知り合いましたか？  
※複数選択可

	n	%
バーで知り合った	2203	31.8%
友人を通して知り合った	2540	36.7%
クラブで知り合った	427	6.2%
ハッテン場で知り合った	1414	20.4%
ネット上(掲示板)で知り合った	2428	35.1%
出会い系アプリで知り合った	4540	65.6%
SNSで知り合った	2692	38.9%
サークルで知り合った	732	10.6%
親しいゲイ・バイセクシュアル、またはトランス・ゲイ男性の友人はいない	382	5.5%
その他	181	1.9%
合計	6921	

友達と知り合ったきっかけは、アプリ、SNS上、ネットの掲示板、友達を介して、バーでという回答が多かった。

### 83 親へのカミングアウト経験

Q. ゲイ・バイセクシュアル、またはトランス・ゲイ男性であることを親にカミングアウトした経験はありますか？

	n	%
両親ともにした	590	8.5%
父親のみにした	64	0.9%
母親のみにした	563	8.1%
両親ともにしていない/しなかった	4839	69.9%
伝えていないが、父親/母親/両親は知っている/知っていた	514	7.4%
親はいない	351	5.1%
合計	6921	100.0%

親へのカミングアウトは、両親ともにしていないが7割弱だった。

### 84 職場/学校でのカミングアウト

Q. 職場や学校でカミングアウトはしていますか？

	n	%
広くしている(隠していない)	425	6.1%
信頼できる人へのみしている	1912	27.6%
全くしていない	4584	66.2%
合計	6921	100.0%

職場や学校でのカミングアウトは、全くしていないが7割弱だった。

### 85 心を許せるゲイ・バイセクシュアルの友達の有無

Q. 心を許せるゲイ・バイセクシュアルの友達はいますか？

	n	%
いる	4882	70.5%
いない	2039	29.5%
合計	6921	100.0%

心を許せるゲイ・バイセクシュアルの友達がいる人は7割強だった。

### 86 心を許せるレズビアン友達の有無

Q. 心を許せるレズビアン友達はいますか？

	n	%
いる	516	7.5%
いない	6405	92.5%
合計	6921	100.0%

心を許せるレズビアン友達はいないという人が9割強だった。

### 87 心を許せるトランスジェンダーの友達の有無

Q. 心を許せるトランスジェンダー(トランス男性・トランス女性を含む)の友達はいますか？

	n	%
いる	478	6.9%
いない	6443	93.1%
合計	6921	100.0%

心を許せるトランスジェンダーの友達はいないという人が9割強だった。

### 88 心を許せる異性愛者の友達の有無

Q. 心を許せる異性愛者の友達はいますか？

	n	%
いる	4046	58.5%
いない	2875	41.5%
合計	6921	100.0%

心を許せる異性愛者の友達がいる人は6割弱だった。

## 自己肯定感

## 89 性のめざめ時、現在の肯定感

Q. あなた自身、自分のことをどのくらい肯定的、あるいは否定的に感じていますか？いましたか？

男性とはじめてセックスをした（めざめた）頃の自分への評価、感じ方

	n	%
とても否定的	684	9.9%
否定的	1127	16.3%
どちらでもない	2787	40.3%
肯定的	1547	22.4%
とても肯定的	776	11.2%
合計	6921	100.0%

自分のセクシュアリティに気づいた頃の自己肯定感は、「肯定的」と「とても肯定的」を合わせて33.6%だった。

現在のあなた自身の自分への評価、感じ方

	n	%
とても否定的	407	5.9%
否定的	853	12.3%
どちらでもない	2246	32.5%
肯定的	2125	30.7%
とても肯定的	1290	18.6%
合計	6921	100.0%

## 90 自身の自己評価が上がったこと

Q. 次の項目のなかでこれまでに行って、ご自身の自己評価が上がったことはどれですか？※複数選択可

	n	%
体型や肉体を改造した	2441	35.3%
ゲイ・バイセクシュアル、またはトランス・ゲイ男性だとばれない努力をした	1352	19.5%
服装や見た目をゲイ・バイセクシュアル、またはトランス・ゲイ男性に受けるものにした	1437	20.8%
セックスで以前よりモテるようになった	1157	16.7%
資格をとった	1010	14.6%
勉強をがんばった	1313	19.0%
仕事をがんばった	2796	40.4%
社会貢献活動に参加した	417	6.0%
趣味を極めた	940	13.6%
LGBT等のサークルに入った	359	5.2%
LGBT等向けイベントに参加した	364	5.3%
SNSやアプリなどでゲイ・バイセクシュアル、またはトランス・ゲイ男性として周囲とつながれた	2230	32.2%
ゲイ・バイセクシュアル、またはトランス・ゲイ男性の友達をつくった	2315	33.4%
ゲイ・バイセクシュアル、またはトランス・ゲイ男性の恋人ができた	1596	23.1%
家族にカミングアウトした	550	7.9%
家族以外にカミングアウトした	1113	16.1%
その他(具体的に)	262	3.8%
全体	6921	

自己肯定感の向上に繋がった活動としては、「仕事をがんばった」、「体型や肉体を改造した」が多く、友達ができたという項目も自己肯定に繋がると回答された。

## 20. ストレス・スクリーニング尺度 (K6)

## 91 ストレスに関する6つの質問

Q. この1ヵ月間に、どれくらいの頻度で次のことがありましたか??

神経過敏に感じましたか

	n	%
全くない	3509	50.7%
少しだけ	1665	24.1%
ときどき	1092	15.8%
たいてい	402	5.8%
いつも	253	3.7%
合計	6921	100.0%

絶望的だと感じましたか

	n	%
全くない	3192	46.1%
少しだけ	1749	25.3%
ときどき	1185	17.1%
たいてい	460	6.6%
いつも	335	4.8%
合計	6921	100.0%

そろそろ、落ち着かなく感じましたか

	n	%
全くない	2564	37.0%
少しだけ	2095	30.3%
ときどき	1565	22.6%
たいてい	452	6.5%
いつも	245	3.5%
合計	6921	100.0%

気分が沈み込んで、何が起っても気が晴れないように感じましたか

	n	%
全くない	1993	28.8%
少しだけ	2122	30.7%
ときどき	1699	24.5%
たいてい	672	9.7%
いつも	435	6.3%
合計	6921	100.0%

何をしても骨折れだと感じましたか

	n	%
全くない	2748	39.7%
少しだけ	1983	28.7%
ときどき	1335	19.3%
たいてい	548	7.9%
いつも	307	4.4%
合計	6921	100.0%

自分は価値のない人間だと感じましたか

	n	%
全くない	2893	41.8%
少しだけ	1652	23.9%
ときどき	1127	16.3%
たいてい	586	8.5%
いつも	663	9.6%
合計	6921	100.0%

K6 スケールの合計得点分布

	n	%
0～4点	3040	43.9%
5～12点	2792	40.3%
13点以上	1089	15.7%
合計	6921	100.0%

精神の健康度を測定する尺度(K6)による設問。6つの質問について5段階(0～4点)で点数化し(合計0～24点)、合計得点が高いほど精神的な問題がより重い可能性があるとされている。

**Sexual Compulsivity スケール日本語版 Ver.1**

**92 性的な行動、依存や脅迫的な傾向に関する10の質問**

Q. 以下に、人によってはご自分の状況をこんなふうに表現していたという文があります。それぞれの文についてあなた自身にもっともあてはまると思うものを選んでください。

**性欲のせいで人付き合いにヒビが入ることがある**

	n	%
まったくあてはまらない	2900	41.9%
あまりあてはまらない	2208	31.9%
まああてはまる	1544	22.3%
とてもあてはまる	269	3.9%
合計	6921	100.0%

**自分の性的な想像や性的行動は、私の生活や人生に問題を引き起こしている**

	n	%
まったくあてはまらない	3217	46.5%
あまりあてはまらない	2078	30.0%
まああてはまる	1311	18.9%
とてもあてはまる	315	4.6%
合計	6921	100.0%

**セックスしたいという欲求が日々の生活を妨げたことがある**

	n	%
まったくあてはまらない	2816	40.7%
あまりあてはまらない	2269	32.8%
まああてはまる	1485	21.5%
とてもあてはまる	351	5.1%
合計	6921	100.0%

**自分の性的行動のために、約束を破ったり責任を果たせなかったりすることがある**

	n	%
まったくあてはまらない	3860	55.8%
あまりあてはまらない	1992	28.8%
まああてはまる	896	12.9%
とてもあてはまる	173	2.5%
合計	6921	100.0%

**ものすごく性的に欲情して、コントロールできそうもないことがある**

	n	%
まったくあてはまらない	3370	48.7%
あまりあてはまらない	2036	29.4%
まああてはまる	1239	17.9%
とてもあてはまる	276	4.0%
合計	6921	100.0%

**職場や学校でふと気づくとセックスについて考えていることがある**

	n	%
まったくあてはまらない	1361	19.7%
あまりあてはまらない	1692	24.4%
まああてはまる	2875	41.5%
とてもあてはまる	993	14.3%
合計	6921	100.0%

**性的な想像や性感が本来の自分よりも強くなっていると感じる**

	n	%
まったくあてはまらない	2186	31.6%
あまりあてはまらない	2402	34.7%
まああてはまる	1807	26.1%
とてもあてはまる	526	7.6%
合計	6921	100.0%

**性的な想像や性的行動をコントロールするために苦労している**

	n	%
まったくあてはまらない	3268	47.2%
あまりあてはまらない	2372	34.3%
まああてはまる	992	14.3%
とてもあてはまる	289	4.2%
合計	6921	100.0%

**自分が望む以上にセックスのことばかり考えている**

	n	%
まったくあてはまらない	2497	36.1%
あまりあてはまらない	2325	33.6%
まああてはまる	1563	22.6%
とてもあてはまる	536	7.7%
合計	6921	100.0%

自分と同じくらいセックスをしたがる相手はなかなか見つからない

	n	%
まったくあてはまらない	2390	34.5%
あまりあてはまらない	2301	33.2%
まああてはまる	1514	21.9%
とてもあてはまる	716	10.3%
合計	6921	100.0%

### 93 過去6ヶ月間の性に関する行動と日常生活への影響

Q. 過去6ヶ月間に、セックスすること、セックスの動画を見ること、マスターベーションすることなど、性に関する行動が自分でコントロールできず日常生活に支障が出続けていますか？

	n	%
はい	915	13.2%
いいえ	6006	86.8%
合計	6921	100.0%

## いじめ経験 / トラウマ体験

### 94 子どもの頃のいじめ(セクシュアリティを理由としたもの、それ以外)

Q. 子どもの頃に、いじめられたことがありますか？

	n	%
ある(ホモ、オカマなど、自分のセクシュアリティに関連したいじめが多かった)	2391	34.5%
ある(自分のセクシュアリティとは関係のないいじめが多かった)	2327	33.6%
ない	2203	31.8%
合計	6921	100.0%

「ホモ」、「オカマ」等のいじめは34.5%、その他のいじめは33.6%があったと回答。

親から、十分な世話や関心を向けてもらえなかった

	n	%
はい	1122	16.2%
いいえ	5799	83.8%
合計	6921	100.0%

親から無視されていたという人は16.2%

家族に、アルコールやギャンブル、薬物などの問題(依存)をもつ人がいた

	n	%
はい	988	14.3%
いいえ	5933	85.7%
合計	6921	100.0%

家族に何らかの依存をもつ人がいたという人は14.3%。

### 95 虐待、ネグレクト、家族内の依存症者、家族内の自殺者など、子ども期の逆境体験の有無

Q. 以下の経験があるか教えてください。

親から、暴言をはかれたり、両親のDVを見ていた

	n	%
はい	1395	20.2%
いいえ	5526	79.8%
合計	6921	100.0%

親のDVを見ていたという人は20.2%。

親からの暴力や体罰を受けていた

	n	%
はい	1174	17.0%
いいえ	5747	83.0%
合計	6921	100.0%

親から暴力、体罰を受けていたという人は17.0%。

家族内で、自殺をした人がいる

	n	%
はい	294	4.2%
いいえ	6627	95.8%
合計	6921	100.0%

家族に自殺者がいたという人は4.2%。



**96 性被害（12 歳以前、思春期以降）、被脅迫、脅しの経験**

Q. 以下の経験があるか教えてください。

12 歳以前に、年上の相手から性行為を求められたり、強制されたりしたことがある

	n	%
1 回だけある	449	6.5%
2 回以上ある	374	5.4%
ない	6098	88.1%
合計	6921	100.0%

12 歳までの性被害経験は、約 12%があると回答。

思春期以降、自分が望まない性行為を強制されたことがある

	n	%
1 回だけある	537	7.8%
2 回以上ある	478	6.9%
ない	5906	85.3%
合計	6921	100.0%

思春期以降の性被害経験は、14.7%があると回答。

セクシュアリティを理由に、バラすと脅されたりしたことや、金銭を要求されたりしたことがある

	n	%
1 回だけある	309	4.5%
2 回以上ある	92	1.3%
ない	6520	94.2%
合計	6921	100.0%

回答者の約 6%が脅迫や金品を要求された経験がある。

**その他の経験**

**97 職務質問を受けた、逮捕された、住む場所がない、セックスワークの経験**

Q. 以下の経験があるか教えてください。

これまでに職務質問を受けたことがありますか？

	n	%
過去 6 ヶ月間にあった	493	7.1%
6 ヶ月以上前にあった	2313	33.4%
一度もない	4115	59.5%
合計	6921	100.0%

約 4 割があると回答。

これまでに逮捕されたことがありますか？

	n	%
過去 6 ヶ月間にあった	44	0.6%
6 ヶ月以上前にあった	279	4.0%
一度もない	6598	95.3%
合計	6921	100.0%

逮捕された経験は、4.7%があると回答。

これまでに住む家がなくなった経験がありますか？

	n	%
過去 6 ヶ月間にあった	51	0.7%
6 ヶ月以上前にあった	310	4.5%
一度もない	6560	94.8%
合計	6921	100.0%

これまでにセックスをすることで金銭を受け取ったことがありますか？

	n	%
過去 6 ヶ月間にあった	285	4.1%
6 ヶ月以上前にあった	1285	18.6%
一度もない	5351	77.3%
合計	6921	100.0%

セックスワークの経験は、22.7%があると回答。

## 63 の解説

**Q HIV 感染に気づいている人は、治療を継続することで血液中からウイルスがほとんど見つからなくなる**

**A** 私たちが 2013 年に実施した HIV 陽性者の生活実態を調べるための全国調査（回答者 1,100 人）の結果では、回答者全体の 95% が抗 HIV 薬の服薬中でした。また、回答者全体の約 70% の人が血液検査の結果、ウイルスが検出限界以下（血液中から HIV が見つからないレベル）でした。

HIV 陽性者が多く通院する病院の医師たちによると、より高い割合で血液中から HIV が見つからないレベルまで抑え込むことに成功していると聞きます。やがて精液などの体液中からも HIV が見つからないレベルに減少するといわれています。

ですので、自らの感染に気づき、抗 HIV 薬の服薬をし、HIV を検出限界以下に抑えている HIV 陽性者から、他者への感染の可能性は非常に低いことが分かっています。

**Q 性感染症（HIV 以外）にかかっていると、HIV に感染しやすくなる**

**A** クラミジア、梅毒などの性感染症にかかっていると、HIV への感染の可能性がより高くなることが指摘されています。性感染症にかかると粘膜に炎症がおこり、出血がしやすくなったり、HIV がとりつくことのできる白血球（CD4 陽性 T リンパ球）が集まってきたりして、感染がおこりやすくなるといわれています。

**Q HIV に感染しても、早期に治療を開始すれば、長く生きられる**

**A** 感染している人と、感染していない人の寿命の差が小さくなっていることが報告されています。

感染している場合にも、早期に治療を開始して、継続していくことによって、定年や老後の生活を積極的に検討していけるような抗 HIV 薬による治療技術が開発されています。

**Q HIV の治療費を低く抑えることができる社会制度がある**

**A** 薬害エイズ裁判の和解により、1998 年 4 月から、HIV 陽性者は身体障害者認定の対象になりました。それにより、医療費を低く抑えるための医療費の助成制度を利用できるようになりました。

前年度の所得に応じて自己負担の金額は違いますが、健康保険と障がい手帳による医療費助成制度（自立支援医療）を併用した場合、平均的なサラリーマンの場合、医療機関／院外薬局の支払いを合わせて、月額 1 万円が自己負担の上限額となっています。通院の頻度も、最初は 2 週間～月に 1 度、安定すると 2～3 ヶ月に一度になることが多いので、その度にこの金額を自己負担することになります。

参考：「制度の手引き」関東甲信越 HIV/AIDS 情報ネット（新潟大学医歯学総合病院 感染管理部）

**Q 通院し治療を受けても、HIV のプライバシーは守られ、役所、病院などから職場や学校に勝手に伝わらない**

**A** 健康保険を利用して勝手に病名が職場や学校、家族に伝わることは、基本的にはありません。健康保険組合と会社は別組織です。健康保険法、個人情報保護法などで勝手に個人情報を職場に伝えることが禁じられています。また、医療従事者には守秘義務があり、罰則規定も存在します。

**Q セックスの相手が HIV に感染している場合でも、感染に気づき治療を継続している場合には、感染の可能性は非常に低くなる**

**A** HIV 陽性で治療を継続している場合、多くの場合、血液中からウイルス（HIV）が見つからないレベルになります。最近、世界中で行われている調査でも、見つからないレベルに HIV を抑えることに成功していれば、ほぼ感染は起こらないと報告されています。もちろん、他の性感染症などが存在することもあるため、お互いの健康のためにコンドームの使用を続けることが基本になります。

**Q HIV 感染に気づかずにいると、セックスを通じて体内のウイルスを誰かにうつすことがある**

**A** 日本の国内に HIV 陽性者が何人いるのかは、実際のところ分かりません。医師から厚生労働省に報告されているのは、2 万 6 千人 (2016 年 6 月) います。しかし、HIV に感染しているのに、自分でその事実を知らないでいる人もいます。コンドームを使ってセックスをしていれば HIV 感染のリスクを大幅に減らすことができますが、コンドームを使わないセックスをした場合には、知らない間に相手にウイルスを渡してしまう可能性があります。

**Q オールセックスでの HIV の感染のリスクは低いが、ゼロではない**

**A** NPO 法人ぶれいす東京は HIV 陽性者、パートナー、家族向けのフリーダイヤルの電話相談を運営しています。毎年 200 ～ 300 人の HIV 陽性者から新規相談があります。相談のなかでは、感染経路をお聞きすることもあります。なかには、アナルセックスはしたことがないが感染している、というゲイ男性も、数は多くありませんが存在します。もちろん、注射の回し打ちもしていないとのこと。

「フェラチオだけで HIV に感染するの？」とびっくりする人もいるかもしれませんが、実際にそのようなことはあるようです。ではどうしたらよいのでしょうか？いくつか HIV 感染の可能性を低くする方法があります。

1：最も安全な方法はコンドームをつけてフェラチオをすることです。もし、それが難しい場合には、2：あなたの口の外に相手に射精してもらう。3：喉に炎症がある、口内炎がある、虫歯の治療痕があるときなど、コンディションが悪いときには、行為を控えるなどがあります。フェラチオをされる側、つまり舐められる側は、HIV の感染の可能性はほとんどありません。

**Q 先進国では HIV の主な感染ルートは男性同性間のセックスによるものである**

**A** イギリス、アメリカ、ドイツなどの先進国の多くは、男性同性間のセックスが主な感染経路になっています。また、アジアの国々、フィリピン、タイ、台湾、韓国、中国などでも男性同性間のセックスによる感染の広がりが報告されています。日本では、毎年約 1,000 人の男性が「男性との性行為」で新規に感染していると報告されています。

**Q コンドームを使用することで、HIV だけでなく、他の性感染症のリスクも減らせる**

**A** コンドームだけで、性感染症のすべてを予防することはできませんが、感染の可能性をかなり低下させることができます。これは、病原体を含んだ精液や膈分泌液、直腸粘液などの体液が粘膜にふれることを防ぎ、病原体が侵入することを防ぐからです。

参考：「STI 性感染症ってどんな病気？」東京都福祉保健局健康安全部

参考：「コンドームの達人こと、医師・岩室紳也によるコンドームの正しい着け方。」

**「LASH -Love Life and Sexual Health-」 <http://www.lash.online/>**

主にゲイ、バイセクシュアル男性 (MSM) を対象に、LOVE ライフ、セクシュアルヘルス (性の健康)、メンタルヘルス (こころの健康、薬物使用など) に関する情報を発信する Web サイト

**平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業  
「LASH 調査」報告書**

編集：生島 嗣 (特定非営利活動法人ぶれいす東京)

野坂 祐子 (大阪大学大学院)

山口 正 純 (武南病院)

三輪 岳 史 (特定非営利活動法人ぶれいす東京)

大槻 知子 (特定非営利活動法人ぶれいす東京)

林 神 奈 (サイモンフレイザー大学)

井上 洋 土 (放送大学)

仲倉 高 広 (京都大学大学院)

大島 岳 (一橋大学大学院)

藤田 彩子 (東京大学大学院、特定非営利活動法人ぶれいす東京)

及川 千 夏 (特定非営利活動法人ぶれいす東京)

若林チヒロ (埼玉県立大学)

樽井正義 (特定非営利活動法人ぶれいす東京)

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場 4-11-5 三幸ハイツ 403

特定非営利活動法人ぶれいす東京 研究事業部

URL: <http://www.chiiki-shien.jp/>

Mail: [kenkyu.jimu@gmail.com](mailto:kenkyu.jimu@gmail.com)

本報告書は、平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「地域において HIV 陽性者と薬物使用者を支援する研究班」(研究代表者：樽井正義) 分担研究「MSM の薬物使用・不使用に関わる要因の調査」(研究分担者：生島嗣) により制作しました。

2017 年 11 月発行

※データを引用される際にはご一報ください。